

The 2015 Annual Meeting of the Japanese Society for History of Pharmacy (JPHS)

# 日・中・韓 国際薬史フォーラム 日本薬史学会2015年会 (奈良)

## 講演要旨集



*Panax ginseng*



まほろば  
大和の薬と歴史

2015年11月21日 土

奈良春日野国際フォーラム 薨～I・RA・KA～

主催：日本薬史学会

共催：日本薬学会、日本生薬学会、近畿化学協会

協賛：奈良県製薬協同組合、奈良県薬剤師会、大阪府薬剤師会、奈良市薬剤師会

後援：奈良県、奈良市、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、奈良県医師会、奈良市医師会

## 目 次

|              |    |
|--------------|----|
| 開催にあたって      | 1  |
| 会場までのアクセス    | 2  |
| 年会参加者各位へのご案内 | 3  |
| 発表に関するご案内    | 5  |
| 会場案内         | 7  |
| プログラム        | 8  |
| 講演要旨         |    |
| 特別講演         | 13 |
| 国際シンポジウム     | 15 |
| シンポジウム       | 25 |
| 一般講演         | 41 |
| ポスター発表       | 49 |

## 開催にあたって

日本薬史学会 2015 年会は、「日本のくすりの歴史」の原点ともいえる奈良の地で開催する運びとなりました。古事記にも“大和は国のまほろば”と詠われておりますように、奈良は日本最古の朝廷がおかれ、悠久の時を刻む歴史ある地であり、大陸からの文化、文物、医療および薬物が本邦に流入したシルクロード東端の終着駅でもあります。聖武天皇の遺愛品が納められている奈良東大寺の正倉院には、古文書や調度品だけでなく、約 1250 年前の薬物も納められております。平成 6 年から 7 年にかけて、柴田承二本会名誉会長の指揮監督のもと、この 60 種類の薬物の第二次調査が行われたのも記憶に新しいところです。

このように奈良は、国産生薬栽培の伝統を維持・継承するとともに、近世の薬種問屋を起源として発展してきた多くの製薬企業の創業の地であります。本年会では、奈良県製薬協同組合の全面的なご協力を得て、古代から中世・近世、現代に至る“まほろば大和の薬と歴史”をメインテーマといたしました。11 月 21 日に開催される国際シンポジウムでは、本会のグローバル化の一環として、日本人に最もなじみの深い生薬のひとつである“朝鮮人參”を材題にしております。また、同日の特別講演については、本年会を奈良の地で開催することに鑑み、法相宗大本山薬師寺 管主 山田法胤師に“医薬の仏 薬師瑠璃光如来と薬師寺”というテーマでご講演をお願いしております。本特別公演は日本薬史学会の存在と活動を広く市民の皆様にご知っていただくために、市民公開講座といたしました。薬に関する歴史を紐解き発表する場として、能楽堂という歴史ある伝統芸能の舞台を得ることができたことについても、皆様と喜びを共有したいと思うところです。

翌 22 日は、日本最初の薬用植物園をはじめ、大願寺での薬草料理、平山郁夫画伯による薬師寺の大唐西域壁画、写経を含む同寺の拝観など、まさに薬の歴史の原点を探るにふさわしいツアーを用意しております。

本年会が会員およびご参加の皆様にとって実りの多いものとなり、また、本会の活動と本年会が薬学の進歩および発展に寄与することを祈念しております。

最後に、本シンポジウムの開催にあたり、各方面からご指導、ご支援、ご援助を賜りましたことに厚くお礼を申し上げます。

平成 27 年 11 月吉日

日本薬史学会 2015 年会

年会長 村 岡 修  
(近畿大学薬学部)

## 会場までのアクセス

奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～（旧奈良県新公会堂）

〒630-8212 奈良市春日野町 101

TEL 0742-27-2630 FAX 0742-27-2634

（奈良春日野国際フォーラムのHP参照：<http://www.i-ra-ka.jp/iraka/access/>）



### ・徒歩

近鉄奈良駅 2 番出口より徒歩 20 分

### ・バス

(1) 近鉄奈良駅 5 番出口より奈良交通バス 1 番のりば

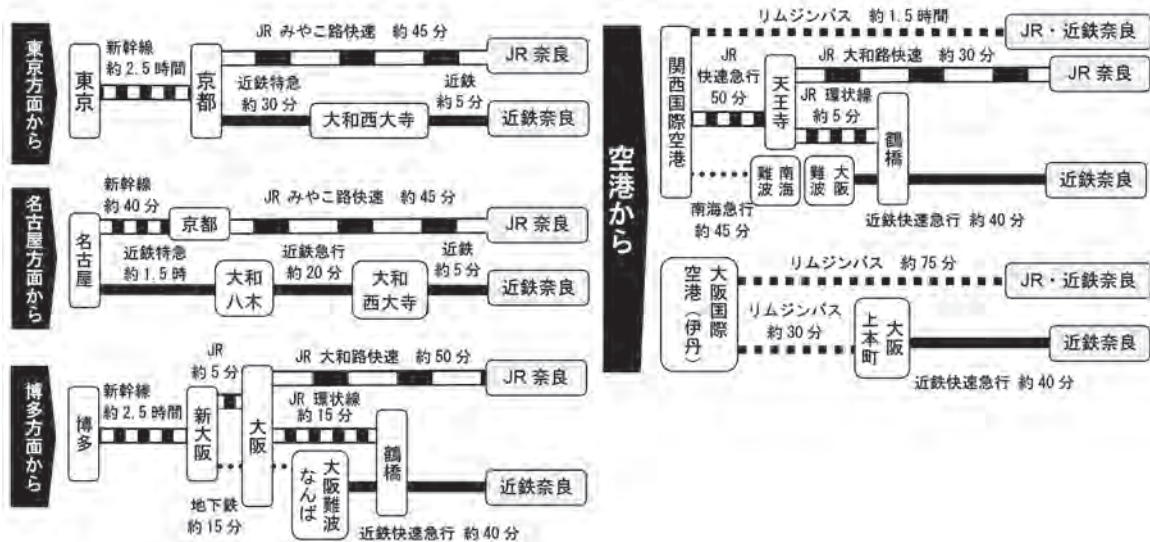
(2) JR 奈良駅より奈良交通バス東口 2 番のりば

(1)、(2) とも

「春日大社本殿」行き「奈良春日野国際フォーラム麓前」下車すぐ又は、「市内循環（外回り）」

バス「東大寺大仏殿・春日大社前」下車、大仏殿交差点東へ徒歩 3 分

### 【交通】



## 年会参加者各位へのご案内

### 〈参加者の皆様へ〉

- 年会への参加は参加登録を済ませた方に限ります。
- 当日、会場は9：00に開場致します。
- 事前登録されている方には参加証と要旨集を郵送致します。会場でカードケースを用意しますので、会期中は必ずお付けください。参加証をお忘れになった方は総合受付にお申し出ください。参加証のない方の入場はお断りします。
- 年会当日に参加申込をされる方は、総合受付にて参加申込用紙に該当事項を記入の上、当日参加費を支払い、参加証および講演要旨集をお受け取りください。なお、領収書が必要な方は、その旨お申し出ください。

|       |     |         |
|-------|-----|---------|
| 当日参加費 | 会 員 | 5,000 円 |
|       | 非会員 | 6,000 円 |
|       | 学 生 | 無 料     |

- 講演会場内での飲食はご遠慮ください。会場館内は全面禁煙です。
- 会場周辺には飲食店がありません。ポスター会場内に昼食会場を設けますので利用ください。また、会場にてお弁当（1000 円）の販売を行います。
- ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

### 〈懇親会〉

18：30より2階 レセプションホールで行います。当日参加も受け付けております。受付までお申し出ください。

|        |         |         |
|--------|---------|---------|
| 懇親会参加費 | 会 員・非会員 | 5,000 円 |
|        | 学 生     | 1,000 円 |

### 〈薬史ツアー〉

2015 年会では、薬史ツアーを以下の要領で開催いたします。

日時：2015 年 11 月 22 日（日）8 時 30 分～16 時 30 分（予定）

定員 30 名程度、料金 10,000 円程度（昼食代込、当日支払い）

参加者には出発地に近いホテルの準備が可能です。

[8：30] 出発

榎原ロイヤルホテル —— 三光丸クスリ資料館 —— 宇陀市歴史文化館「薬の館」 ——

昼食（大願寺・薬草料理） —— 法相宗大本山 薬師寺（現地解散）

\*薬師寺にて平山郁夫画伯による大唐西域壁画の特別鑑賞許可を得ております。

また、般若心経の写経〔永久保存〕も予定しております。

### 〈会場内でのご注意〉

会場内では、携帯電話の電源を切るかマナーモードに設定してください。会場内での通話をご遠慮ください。また、講演中の録音、写真およびビデオ撮影はお断り致します。

### 〈薬剤師研修認定のための受講シールの申請と配布〉

本年会は、日本薬剤師研修センターの集合研修会となっております。また、「漢方薬・生薬認定薬剤師」更新のための研修単位としても認められます。希望される方は申請をしてください。

受付場所：総合受付 薬剤師研修センター受講シール受付

配布時間：16：00～18：30

受講シール：受講単位は4単位です。

受付で申請用紙に必要事項を記入し、参加証とともに提出してください。

### 〈その他〉

- 参加者・講演者各位へのご案内は、ホームページでアップされているものを最新とします。
- クロークを本部隣（小会議室1）に設置します。開設時間：9：00～20：30

#### 日本薬史学会 2015 年会（奈良）

年会長 村岡 修

事務局連絡先

〒577-8502 東大阪市小若江3丁目4番1号 近畿大学薬学部内

TEL 06-4307-4306 FAX 06-6729-3577

E-mail : yakushi2015@phar.kindai.ac.jp

<http://yakushi.umin.jp/meetings/nenkai.html>

## 発表に関するご案内

### 〈座長の先生方へ〉

- ご到着の旨をご担当の講演時間の40分前までに受付にご連絡ください。
- 会場に次座長席を設けていますので、ご担当の講演開始10分前までにお席にお着きください。
- 国際シンポジウムおよびシンポジウムの発表時間は、質疑応答を含めてそれぞれ30分となっております。
- 一般演題の発表時間は質疑応答を含め演者（または座長）の交代時間も含めて12分（発表10分、質疑応答2分）となっております。
- 発表時間につきましては、以下の要領でお知らせいたします。
  - 予鈴1回：発表終了1分前
  - 予鈴2回：発表終了時
  - 予鈴3回：質疑応答終了時
- 各演題の進行は、プログラムに沿って座長の先生にお任せいたします。
- 円滑な進行にご協力をお願いいたします。

### 〈口頭発表講演者の方へ〉

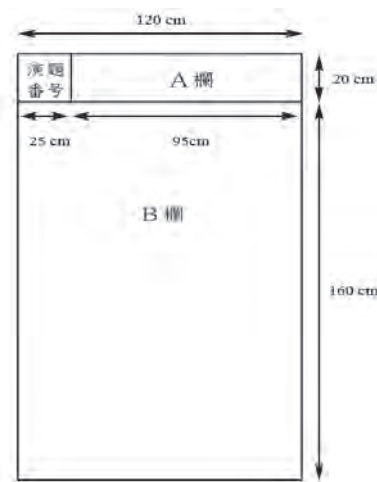
- ご発表の10分前までに会場の次演者席までお越しください。
- 一般演題の発表時間は質疑応答を含め演者の交代時間も含めて12分（発表10分、質疑応答2分）となっております。
- 発表時間につきましては、以下の要領でお知らせいたします。
  - 予鈴1回：発表終了1分前
  - 予鈴2回：発表終了時
  - 予鈴3回：質疑応答終了時
- 講演はご自身のノート型パソコンをご用意いただき、講演中もご自身で操作して画像を進めてください。会場スタッフはパソコントラブルには対応致しません。習熟したパソコンをご使用ください。
- プロジェクターへの接続は、会場のD-sub mini 15pin（オス）タイプのコネクタをパソコンのD-sub mini 15pin（メス）につないで行います。この端子に接続できないノート型パソコンを使用される場合には、必ず別途変換コネクタを必ずご用意ください。また、ご持参のノート型パソコンのモニターとプロジェクター画面の切り替え操作（例：ファンクションキー（Fn）+F3など）をあらかじめご確認ください。



- ノート型パソコンを講演会場受付にお預けの際には、講演開始までの間にスリープを避けるために「省エネルギー設定」「スクリーンセーバー」を解除し、また、起動時（またはスリープ状態からの回復時）のパスワード設定をしないでください。また、必ず電源ケーブルをご持参ください。
- 万一のパソコントラブルの際の控えとして、データを CD-R や USB メモリ などバックアップをとり、ご持参ください。

#### 〈ポスター発表講演者の方へ〉

- ポスターは、午前中に所定の場所に掲示をお願いいたします。
- 示説時間は、13：00 から 14：00 までです。示説時間中はご自身のポスターの前で説明や討論を行ってください。（リボンを用意致しますのでご着用ください。）
- ポスターの掲示スペースは、縦 160 × 横 120 cm です（右図参照）。左上隅に 20 × 25 cm の演題番号をあらかじめ掲示しますので、ご自身の演題番号と一致するスペースをご使用ください。図中の A 欄 20 × 95 cm に演題、所属、共同研究者（演者には○印をつける）を、B 欄に発表内容のポスターを貼付けてください。なお、一区画内の枚数に制限はありませんが、文字、図は見やすいものになるように工夫してください。
- ポスターの撤去は、17：00 以降をお願い致します。
- 撤去時間を過ぎても撤去されないポスターについては、事務局で対応致します。時間の都合上、撤去時間までにお帰りの際は受付にご連絡ください。

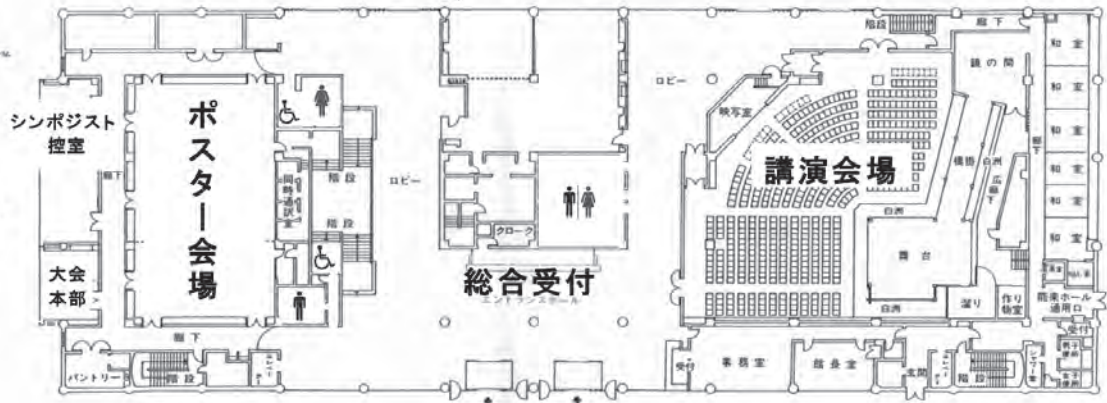




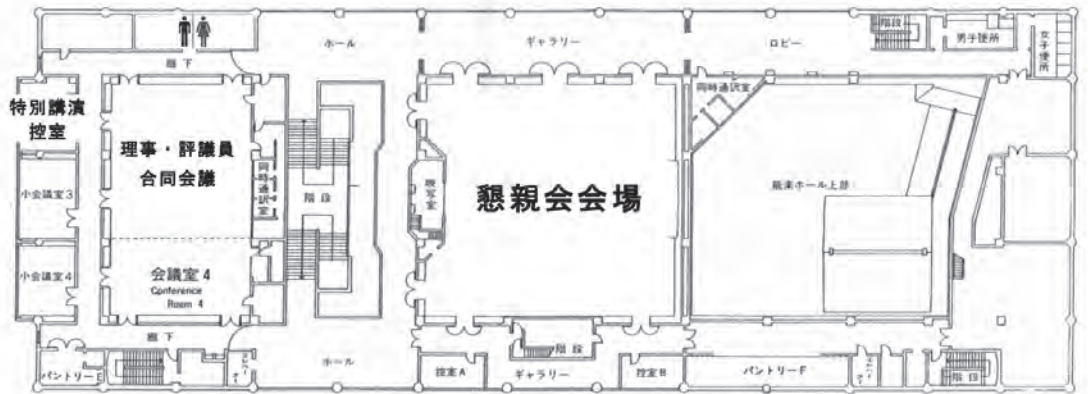
# 会場案内



1F



2F



# プログラム

受付 (9:00～)

開会の挨拶 (9:30～9:40)

2015年会の開催にあたって

2015年会長 村岡 修

一般演題 1～4 (9:40～10:28)

【座長：森本 和滋、ヨング ジュリア】

1. 医薬品の一般名に関する考察 (4)：抗菌薬の名称

○三澤 美和 (日本薬科大学)

2. 米国における医療大麻のコンパッション・ユース制度の歴史

○宮路 天平<sup>1</sup>、山口 拓洋<sup>1,2</sup>、津谷 喜一郎<sup>3</sup>

(<sup>1</sup> 東京大学大学院医学系研究科 臨床試験データ管理学講座、

<sup>2</sup> 東北大学大学院医学系研究科 医学統計学分野、<sup>3</sup> 東京大学大学院薬学系研究科)

3. 蘭方薬「ウルユス」と「ホルトス」の考察

○野尻 佳与子 (奈良女子大学大学院人間文化研究科)

4. 韓国近代薬学教育 100年の歴史

○沈 昌求、金 鎮雄、張 允二 (韓国ソウル大学薬学部)

国際シンポジウム (10:28～11:58)

【座長：沈 昌求、肖 永芝】

グローバル商品としての朝鮮人参—日本・中国・朝鮮における歴史—

[日本] 江戸期の朝鮮人参—交易と国産化

田代 和生 (慶應義塾大学 名誉教授)

[中国] 明治初期の日本の朝鮮人参産業貿易政策と中国市場

童 徳琴 (九州大学人文科学部 東洋史学研究室)

[韓国] 朝鮮総督府の朝鮮人参政策—専売政策・貿易政策・有用植物探究—

愼 蒼健 (東京理科大学大学院 科学教育研究科教授)

(大韓医史学会・学会誌編集委員)

昼食・休憩 (11:58～13:00)

日本薬史学会理事・評議員合同会議（12：10～13：00）2F 会議室3

ポスター発表示説時間（13：00～14：00）

特別講演 市民公開講座（14：00～15：00）

【司会：村岡 修】

医薬の仏 薬師瑠璃光如来と薬師寺

法相宗大本山薬師寺 管主 山田 法胤 師

休憩（15：00～15：12）

一般演題5～8（15：12～16：00）

【座長：伊藤 美千穂、河村 典久】

5. 備中売薬の歴史について

○土岐 隆信（株式会社 エバルス）

6. 石見銀山「採薬稼」鑑札について

○成田 研一（鳥根県薬剤師会江津・邑智支部）

7. イタリア・フィレンツェの医薬史跡群

－新聖女マリア薬局、新聖女マリア病院、動物学博物館、ガリレオ博物館など

○石田 純郎（岡山大学医学部 非常勤講師）

8. フリードリッヒⅡ世の皇帝の書 第3報

○辰野 美紀（順天堂大学医学部 医史学研究室）

シンポジウム（16：00～18：00）まほろば大和の薬と歴史

【座長：宮崎 啓一、竹原 潤】

古代大和の薬獵一字陀野と羽内一

和田 萃（京都教育大学名誉教授）

胃腸妙薬の陀羅尼助一伝承から科学まで一

銭谷 伊直（薬剤師・森林インストラクター）

森野旧薬園から発信する生薬国産化のキーテクノロジー

高橋 京子（大阪大学総合学術博物館 兼 大学院薬学研究科）

近現代奈良の薬業小史

武知 京三（近畿大学名誉教授）

2016 年会 年会長挨拶 (18 : 00 ~ 18 : 10)

2016 年会長 岡田 嘉仁 (明治薬大)

閉会の挨拶 (18 : 10 ~ 18 : 15)

2015 年会実行委員長 宮崎 啓一

懇親会 (18 : 30 ~) 2 階 レセプションホール

ポスター発表 (13:00 ~ 14:00)

1. フリードリッヒ・フォン・ハイデンと旧サリチル酸工場化学史跡について  
○中辻 慎一 (兵庫県立大学大学院 物質理学研究科)
2. 薬種問屋から製薬企業への発展 - 二代塩野義三郎と五代武田長兵衛 -  
○安土 昌一郎 (法政大学大学院 経営学研究科)
3. 日本のアミノ酸系医薬品開発 50 年の変遷 (その 5)  
- アミノ酸由来のアルカロイド系医薬品 -  
○荒井 裕美子<sup>1</sup>、松本 和男<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup> (一財)日本医薬情報センター (JAPIC)、<sup>2</sup> 京都大学化学研究所)
4. フランス薬学教育の歴史: 16 世紀から現在に至る日仏の薬学教育の比較検討に基づく我が国の薬学教育のあり方に関する研究  
○儀我 久美子<sup>1</sup>、越前 宏俊<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup> 東京都立青山特別支援学校、<sup>2</sup> 明治薬科大学)
5. History of Ginseng Research  
○Jeong Hill Park (College of Pharmacy, Seoul National University)
6. 中日韓の医薬文献の中に高麗人参の記載の伝承とお互いの関係  
○肖 永芝 (中国中医科学院中国医史文献研究所)
7. 日本酒の奈良地方発祥のルーツと効用の歴史  
○鈴木 利一、松本 和男 ((株) ナールスコーポレーション)
8. 生薬「柿蒂」の薬能及び薬用部位に関する史的深化  
○楠木 歩美<sup>1</sup>、高浦 佳代子<sup>1,2</sup>、高橋 京子<sup>1,2</sup>  
(<sup>1</sup> 大阪大学大学院薬学研究科、<sup>2</sup> 大阪大学総合学術博物館)
9. 奈良県漢方のメッカ推進プロジェクト  
橋本 安弘<sup>1</sup>、前阪 祥弘<sup>2</sup>、和田 正光<sup>3</sup>、○辻元 康人<sup>4</sup>、  
清水 浩美<sup>5</sup>、浅尾 浩史<sup>6</sup>、植山 高光<sup>7</sup>  
(<sup>1</sup> 奈良県知事公室、<sup>1</sup> 産業政策課、<sup>3</sup> 農業水産振興課、<sup>4</sup> 薬務課、<sup>5</sup> 産業振興総合センター、  
<sup>6</sup> 農業研究開発センター、<sup>7</sup> 薬事研究センター)

# 特別講演

## 市民公開講座

14：00～15：00

医薬の仏 薬師瑠璃光如来と薬師寺

法相宗大本山薬師寺 管主 山田 法胤 師

## 経 歴 書

氏 名 山田 法胤（やまだ ほういん）

生 年 昭和 15 年（1940）12 月 5 日

出 生 岐阜県本巣郡根尾村（現在 本巣市根尾）生まれ

入 山 昭和 31 年（1956）1 月 7 日

師 匠 橋本凝胤（はしもとぎょういん）師

学 歴 昭和 39 年（1964）3 月 龍谷大学文学部仏教学科卒業

経 歴 昭和 39 年（1964）7 月 厚生省慰霊団団員として、アッツ島他戦跡各地巡拝

昭和 46 年（1971）4 月 薬師寺執事に就任

平成 2 年（1990）9 月 奈良喜光寺住職に就任

平成 10 年（1998）8 月 薬師寺執事長に就任

平成 15 年（2003）8 月 薬師寺副住職に就任

平成 21 年（2009）8 月 法相宗管長・薬師寺管主に就任

現 職 法相宗管長・薬師寺管主（ほっそうしゅうかんちょう やくしじかんす）

著 作 「こころを耕す」（経済界刊）

「あなたに伝えたい『生き方』がある」（経済界刊）

「声に出してお写経 般若心経といろは歌」（PHP 研究所刊）

「迷いを去る百八の智慧」（講談社刊）

「ブッダに学ぶ とらわれない生き方」（アスコム刊）

「写経作法入門 ここからはじめる基本練習帳」（芸術新聞社刊）

# 国際シンポジウム

グローバル商品としての朝鮮人参—日本・中国・朝鮮における歴史—

10：28～10：58

[日本] 江戸期の朝鮮人参—交易と国産化

田代 和生（慶應義塾大学名誉教授）

10：58～11：28

[中国] 明治初期の日本の朝鮮人参産業貿易政策と中国市場

童 徳琴（九州大学人文科学部東洋史学研究室）

11：28～11：58

[韓国] 朝鮮総督府の朝鮮人参政策

—専売政策・貿易政策・有用植物探究—

愼 蒼健（東京理科大学大学院科学教育研究科教授）

（大韓医史学会・学会誌編集委員）



# 国際シンポジウム

## 江戸期の朝鮮人参 — 交易と国産化

田代 和生（慶應義塾大学名誉教授）

### 1 銀と人参

東京日本橋の日本銀行貨幣博物館に、「人参代往古銀」という奇妙な名前の一枚の銀貨が展示されている。日本国内では一度も通用したことの無い、朝鮮人参の輸入用に鑄造された貿易銀貨で、その背景に江戸中期に起きた激しい「人参ブーム」がある。

江戸期朝鮮人参の輸入は、幕府の貿易港である長崎からではなく、対馬藩宗家が経営する日朝貿易が唯一のルートであった。この貿易は、朝鮮釜山に置かれた「倭館」で業務が行われたことから幕府の目が届かず、そのうち朝鮮人参は主に私貿易（商人との相対貿易）で輸入されたため、朝鮮政府の法令も届きにくい状態にあった。対馬藩は、輸入した朝鮮人参を藩営の人参座で独占販売し、元禄期（1688-1703年）には「人参ブーム」の起きる江戸市中に販売を集約することで、莫大な利益を獲得していた。藩の帳簿によれば、人参輸入のピークは元禄7年（1694）で、この1年間だけで6,600斤余（約4トン）の人参、それも総て山参が輸入されている。この頃朝鮮国内に人参の輸出制限令が出されたが、対価に良質な銀を入手できるため、官民一体となった密貿易が絶えることはなかった。ちなみに上記の元禄7年、朝鮮へ輸出された銀の総量は2,500貫目（約9トン）で、その内の約40%近くが人参代銀である。

日朝貿易における輸出銀は、日本の銀貨幣、すなわち慶長丁銀（品位80%）があてられていたが、宝永期（1704-10年）に勘定奉行萩原重秀による銀貨を中心とした貨幣悪鑄が実施されて以降、様々な問題が起きた。とりわけ朝鮮側が悪鑄銀貨（四ツ宝銀20%など）の受け取りを拒否したことから、幕府に請願して宝永7年（1710）朝鮮人参の輸入促進のため京都銀座で特別鑄造してもらったのが、冒頭に記した「人参代往古銀」（品位80%、輸出名は「特鑄銀」）である。しかし通用銀の品位低下が倭館市場に与えた影響は大きく、人参輸入量の減少に伴い、江戸人参座における小売価格は上昇の一途をたどった。たとえば宝永4年（1707）、座売人参は1斤（600g）あたり銀1貫440目（小判24両）まで上昇しており、幕府にとって医薬行政上の最大の懸案事項になっていた。

## 2 徳川吉宗の人参国産化政策

対馬藩からの銀流出を止め、さらに朝鮮人参の安定的供給を実現したのが、第八代将軍徳川吉宗である。吉宗は国益上の観点から、輸入品と同等のものを国産化し、これを安く国民に提供しようとする「輸入代替」の思想に基づき、朝鮮人参の国産化計画を実施した。この試作開始の時期について、通説では享保14年（1729）日光からとされが、実は吉宗の将軍職就任後間もない頃、江戸と日光の両所で開始されていたことが対馬藩の記録から確認できる。

- 享保2年（1717） 朝鮮医学の最高峰『東医宝鑑』を入手。
- 享保4年（1719） 朝鮮通信使との医事問答。
- 享保6年（1721） 朝鮮薬材調査の開始。人参生根の入手。小石川薬園の大拡張工事。
- 享保7年（1722） 江戸城内・小石川薬園・日光に人参生根を移植。

当初、吉宗は本草学者と協力し、江戸での人工栽培を試みており、享保7年秋城内の吹上薬園にて、結実した種子を手づから植え込んだと記録にある。また小石川薬園では、採種直後の「播種」に加え、種子の催芽をうながす「種めやし」も試みられており、人参栽培の成功につながる二つの方法がすでに初期段階で模索されていた。

気候風土の適合により、最終的に成功を取めたのが日光である。ここでは東照宮内の役人の治療にあたる「療病院」の庭先で試作が開始され、その後耕地拡大のために東照宮敷地内の「仏岩」へ移された。享保13年（1728）吉宗の日光参詣の際、試作に貢献した今市村農民へ種子が公式に下賜されて、以後「お種人参」量産化の時代が始まる。

対馬藩は、結果的に享保6-13年までの7年間、合計35本の生根と種60粒を将軍に献上し、さらに178種に及ぶ倭館での朝鮮薬材調査に30年以上にわたって従事し、報告書の提出を義務づけられた。やがて吉宗が亡くなる宝暦期（1751-63年）、朝鮮への銀流出は完全に途絶し、倭館貿易の輸出の中心は銅に移行していく。

## 略 歴

田代 和生（たしろかずい）（昭和 21 年 1 月 25 日 札幌市生）

### 学 歴

昭和 43 年 3 月 中央大学文学部卒業

昭和 49 年 3 月 中央大学大学院文学研究科博士課程所得退学

昭和 54 年 3 月 文学博士（中央大学）

### 職 歴

昭和 54 年 4 月 慶應義塾大学助教授

昭和 63 年 4 月 慶應義塾大学教授

平成 18 年 4 月 慶應義塾大学大学院教授

平成 23 年 4 月 慶應義塾大学名誉教授

平成 26 年 12 月 日本学士院会員

### 受 賞

昭和 56 年 11 月 第 24 回日本経済新聞経済図書文化賞

昭和 57 年 11 月 慶應義塾大学義塾賞

平成 15 年 11 月 第 15 回毎日新聞アジア太平洋賞特別賞

平成 23 年 4 月 紫綬褒章

### 研究分野

近世日朝交流史

### 著 作

『近世日朝通交貿易史の研究』創文社、昭和 56 年

『書き替えられた国書』中央公論社、昭和 58 年

『江戸時代朝鮮薬材調査の研究』慶應義塾大学出版会、平成 11 年

『倭館—鎖国時代の日本人町』文藝春秋社、平成 14 年

『日朝交易と対馬藩』創文社、平成 19 年

『新・倭館—鎖国時代の日本人町』ゆまに書房、平成 23 年

（校注）『交隣提醒』平凡社、平成 26 年

## 国際シンポジウム

### 明治前期における日本の朝鮮人參の産業政策と中国市場

童 徳琴（九州大学東洋史学研究室）

明治前期は、日本から中国への朝鮮人參の輸出量が急増した時期である。特に、明治6年から12年の間に著しく増加した。明治7年には、6万斤ほどであったが、増加の一途を辿り、明治12年には50万斤を越える膨大な輸出量に達した。一方、同時期に中国では、人參類商品の輸入量が急増するという現象が起きた。中でも、日本からの輸入量の増加が顕著であった。1882年に、中国にとって、最大の人參類商品の輸入元は、日本である。それまでの最大輸入元はアメリカであった。

明治前期の日中貿易品の中で、朝鮮人參の交易量が急増したのには、大きく分けて二つの理由が考えられる。

まずあげられる理由は、日本の医薬環境の急変である。明治期に入り、政府は、それまで行われていた漢方医学から西洋医学への全面的な転換を図った。明治4（1872）年に西洋医学を中心にした医学教育を確立させ、明治7（1874）年に医制を制定し、西洋医学に基づく試験制度、医薬分業制度を実施した。伝統的な漢方医学は、近代の医師免許試験の導入など、一連の近代西洋医学を推進する政策によって衰退した。漢方医学は医薬不可分が原則であり、漢方医学の衰退に伴い朝鮮人參を始めとする薬種の需要も減ったのである。

次に考えられる理由は、売薬業に関する規則が作られたことである。「売薬取締規則」（1870）、「売薬規則」（1877）、「薬品営業並薬品取扱規則」（1889）などの売薬業に関する新規則によって、伝統的な薬種販売が抑制され、多くの薬種商や薬種問屋が洋薬の販売に切り換えた。そのため、朝鮮人參などの薬種の国内販売チャンネルは減少した。

朝鮮人參の国内市場が縮小するにつれて、中国に向けての輸出は大幅に増加していった。当時の中国においては、伝統的な漢方医学がまだ主流であり、薬用人參の需要は伸び続けた。しかし、長年にわたる採集の結果、中国内の薬用人參の産出量は、僅かになっていた。中国の市場には、自国産薬用人參以外に、朝鮮産「高麗参」、アメリカ産「西洋参」および日本産「東洋参」の薬用人參が販売された。当該する時期の海関史料を見ると、1860年から1882年までの間、中国の主要港における人參類商品の輸入は、朝鮮産「高麗参」の単価は高く、輸入は少量であったが、アメリカ産「西洋参」と日本産「東洋参」は比較的廉価で、膨大な輸入量があった。特に、日本

産の朝鮮人參の輸入量が急増し、短期間に中国の人參類薬種の輸入量の一位を占めるようになった。

明治前期に日本産の朝鮮人參が、急激に、大量輸出されるようになった理由は、日中両国の医薬事情の変化と、それに伴う当時の日本の産業政策に深く関わっている。

朝鮮人參の生産や販売に関しては、江戸期には、幕府と藩によって二重の統制が行われていた。明治期になると、新政府は、西洋諸国を範として多様な改革を推進した。その結果、朝鮮人參に関する生産・輸出の統制も撤廃し、人參製造会社を中心とする新たな生産・販売体制を構築した。そこで誕生した人參製造会社は、資金や種子の前貸を通じて、個別栽培農家を次第に系列化し、人參の栽培・製造・販売にいたる一連の過程を掌握していった。こうして人參製造会社が、人參の生産・流通の産業化を推進したため、日本において朝鮮人參の生産規模が急速に拡大したと考えられる。

さらに、政府は、西洋の近代工業を導入する上で正貨の獲得が必要となり、商品輸出の拡張に力を注いだ。政府は、重要輸出品として朝鮮人參に着目し、その生産や加工を奨励した。また、自国の商社を育成するため、政府は全力で「直輸出」などの政策を実行し、新興の商社に対して扶植政策をとった。それによって、日本商社は、外商の手から商権を取り戻しつつ、朝鮮人參の輸出ルートも拡大していた。

こうした生産や輸出の産業促進策の結果、国内における生産・流通体系の改革と、主導的な輸出促進策があいまって、明治前期における国産人參の対中輸出の急上昇という現象がもたらされ、日本の朝鮮人參は史上最大の輸出の隆盛期を迎えたのである。

## 略 歴

童 徳琴 (TONG DEQIN) (昭和 59 年 中国安徽省合肥市生)

### 学 歴

平成 12 年 中国安徽省三河高校に進学。

平成 15 年 中国黄山学院経済学部に入學。

平成 19 年 中国海洋大学人文科学府海城アジア学を専攻、大学院修士課程入学。

平成 22 年 修士課程終了

平成 23 年 日本国立九州大学東洋史学研究室博士後期課程に入學。

平成 27 年 日本国立九州大学東洋史学研究室博士後期課程に在学中。

### 研究分野

近代日中薬種貿易史、近代中国の薬種貿易・薬種市場分布に関する分野。日本の朝鮮人参に関して、『東洋史論集』、『在来知歴史学』、『在来知と地域・社会』、『海洋史研究』、『薬学史雑誌』（採用）など、合計 6 本の論文が公刊或は採用される。

## 朝鮮総督府の朝鮮人參政策

愼 蒼健（東京理科大学）

植民地期朝鮮において、煙草・塩・人參（紅參）・阿片の4品目は専売であった<sup>1</sup>。この4品目のうち、最も早く専売制度下に置かれたのが紅參である<sup>2</sup>。紅參は中国との朝貢貿易において朝鮮側の特産物として重要な貿易品であり、大韓帝国時代の1899年に紅參の専売官署が確立している。そして、1900年には韓国宮内府の下にある内蔵院が三井物産と間で3年間有効の紅參委託販売契約を結び、三井物産は紅參の独占販売が可能となった。以後、1908年を除いて、大韓帝国独立期、保護国期、韓国併合後の植民地期を通じて、三井物産による紅參販売の独占が継続する。

朝鮮総督府の人參政策を考える場合、専売制度の下で三井物産が紅參の独占的販売権を獲得していたという事実はきわめて重要だが、商品としての人參を歴史的に考察する際、人參に関する科学研究という要素を無視してはいけなからう。人參（とりわけ紅參）の薬理作用研究は科学研究として意味を持つと同時に、商品価値を高めるという有用性を持っていたのである。

本講演では、朝鮮総督府、三井物産に加えて、1926年に設立された京城帝国大学医学部の役割について議論を展開したい。とりわけ薬物学第二講座は、「京城帝大看板講座」として1931年に薬理学第二講座となり、教授杉原徳行の指導下で一貫して漢薬研究を行った<sup>3</sup>。さらに、戦時総動員体制下の1939年には、薬理学第二講座における研究の強化拡大という目的で、京城帝大附属生薬研究所が設置され、この研究所は日本の敗戦まで拡大の一途をたどった。

杉原教室は朝鮮の伝統的な本草学、医学の世界から効力があると考えられる漢薬を探索し、これを成分分析し、その成分を抽出した後で薬理学的作用を確かめるという一連の作業を共同で実行するシステムを形成していった。

この研究体制が最も力を注いだ対象こそ、朝鮮人參であった。杉原工場とも呼ぶべき研究体制

---

<sup>1</sup> 専売制度とは、国家が独占的に特定財貨を生産もしくは販売するものであり、収益を目的とするものと公益を目的とするものがある。

<sup>2</sup> 朝鮮人參のうち、収穫直後のものを水參、皮をむいて乾燥したものを白參、人參を蒸して乾燥させた褐色の人參を紅參といった。

<sup>3</sup> 京城帝大の特色が薬物学方面の研究にあることは、当時の京城帝大務課長の西澤新蔵も語っている（『京城帝國大學の沿革及現況』『文教の朝鮮』No.6、1926年、56-61頁）。

に一貫しているのは、いわゆる漢方医学者が評価する人參の薬効を蔑視せず、むしろその効果を西洋医学の立場から検証しようとする態度である。ただし、朝鮮人參が他の漢薬と異なるのは、特に紅參が総督府専売局の管轄下に置かれ、厳しく統制されたことである。そのため、杉原教室の人參研究に必要な実験材料は朝鮮総督府専売局開城出張所から、研究費は紅參の委託販売契約を結んだ三井物産から提供されていた。一方、杉原は紅參製造の際に放出する蒸気から揮発油を得る方法を考案し、専売局開城出張所ではこの方法で揮発油を確保していた。朝鮮人參研究においては、総督府権力と帝国大学、そして企業という三位一体の植民地型研究体制が整備されていたのである。

## 【参考文献】

### 〈一次史料〉

- ・朝鮮総督府『施政二十五年史』1935年。
- ・朝鮮総督府専売局編『朝鮮専売史』全三巻、1936年。
- ・今村鞆『人參史』全七巻、朝鮮総督府専売局、1934～1940年。
- ・杉原徳行『朝鮮人參禮讃』朝鮮総督府専売局、1929年。
- ・朝鮮総督府専売局編『朝鮮総督府専売局年報』1921年～1937年。

### 〈研究論文〉

- ・愼 蒼健「경성제국대학에 있어서 한약연구의 성립」『사회와 역사』76巻、2007年冬号、105-139頁。
- ・양정필「1910-20년대 개성상인의백삼(白蔘) 상품화와 판매 확대」『의사학』제20권 제1호(통권 제38호)、2011년6월、83-118頁。



## 略 歴

愼 蒼健 (しん ちゃんごん) (1964年8月25日 東京都生)

### 学 歴

- 1990年3月 早稲田大学理工学部電気工学科卒業
- 1990年4月 東京大学大学院理学系研究科科学史・科学基礎論専攻修士課程入学
- 1992年3月 同上修了
- 1992年4月 東京大学大学院理学系研究科科学史・科学基礎論専攻博士課程進学
- 1996年9月 同大学大学院総合文化研究科広域科学専攻相関基礎科学系(科学史)博士課程単位修得退学

### 職 歴

- 2003年4月 東京理科大学工学部第一部教養講師(2006年4月から 同大学大学院理学研究科理数教育専攻講師を兼任)
- 2007年4月 東京理科大学工学部第一部教養／大学院理学研究科理数教育専攻准教授
- 2010年8月 大韓醫史學會・学会誌編集委員(～現在)
- 2013年4月 東京理科大学工学部第一部教養／大学院科学教育研究科科学教育専攻教授

### 研究分野

専攻は科学史。専門分野は東アジア近代医学史。朝鮮半島の植民地期伝統医学史研究から出発し、現在は「帝国と医学」という視点から東アジア近代医学史を研究している。

### 著作など

共著『帝国を調査する』(勁草書房、2015年冬刊行予定)、共著『昭和前期の科学思想史』(勁草書房、2011年)、愼蒼健編『帝国の視角／死角－〈昭和期〉日本の知とメディア』(青弓社、2010年)など。

# シンポジウム

まほろば大和の薬と歴史

16：00～16：30

古代大和の薬獵—宇陀野と羽内—

和田 萃（京都教育大学名誉教授）

16：30～17：00

胃腸妙薬の陀羅尼助—伝承から科学まで—

銭谷 伊直（薬剤師・森林インストラクター）

17：00～17：30

森野旧薬園から発信する生薬国産化のキーテクノロジー

高橋 京子（大阪大学総合学術博物館 兼 大学院薬学研究科）

17：30～18：00

近現代奈良の薬業小史

武知 京三（近畿大学名誉教授）

## シンポジウム

# 古代大和の薬獵くすりがり 一字陀野はうちと羽内

和田 萃（京都教育大学名誉教授）

推古天皇 19 年夏、5 月 5 日、薬獵が宇陀野で行われたことが『日本書紀』卷 22.27 の推古・天智紀に薬獵記事がみえている（推古紀 19 年条）。『日本暦日原典』によれば、この日はユリウス暦 611 年 6 月 20 日に相当し、夏至にあたっていた。

推古 15 年の冬に掘られた藤原池は、藤原の地が藤井が原とも称されることからすれば、藤井と称する両泉の湧水を利用して造られたものらしく、この一帯に薬園があったようである。

薬獵の際に藤原池に集まった諸臣は、推古 11 年 12 月に定められた冠、冠の色に随った服を着用し、冠には正月元日のみに許されていた髻華をつけていた。後部領の額田部比羅夫連は推古 16 年の裴世清、18 年の新羅・任那使の入京に際して、飭騎かざりうまの長となった人物である。従って、この日の宇陀野への薬獵は華麗な服飾の騎馬団によるものであり、宮廷をあげての行事であったと言えよう。推古 11 年 12 月に制定された冠帽や髻華は隋唐時代の中国にはその例がなく、当時、朝鮮半島で行われていた例に酷似するとの指摘は、薬獵の源流を考える場合の参考となる。

この宇陀の地はわが国における道教的信仰を考える場合、吉野とともに見逃せない土地である。この地が薬獵や薬草の生育に適した風土であったことは、貞観 2 年 11 月 3 日の詔（『三代実録』）や、近世になってからのことであるが、森野旧薬園が設置され現在に至っていることから推測できる。

推古 20 年 5 月 5 日（ユリウス暦 612 年 6 月 8 日）の薬獵記事は、前年のものに比し、簡略な記事となっている（推古紀 20 年条）。この日、羽田に集まったとの記事は、薬獵を終えて小墾田宮に参趣しているから、小墾田宮までの距離を考えると、薬獵の場所は羽田の地と思われる。ここは『倭名抄』にみえる高市郡波多郷、現在の高市郡高取町羽内と付近とみなすべきだろう。羽内には式内大社の波多甕井みかい神社が鎮座する。現在社地は不明に帰しているが、羽田郷内には式内波多神社があった。『大同類聚方』の逸文に波多神社に伝わる「志路木薬しろき」についての記載がみえる。これは新羅国の鎮明の伝えた喉の晴れを治す処方とされており、『大同類聚方』は問題の多い史料であるから割引いて考えねばならないが、甕井と称する両泉のあるこの地に薬草が多く自生していたので、薬獵の場所とされたのであろうか。騎馬なら、紀路きじをとれば羽田から小墾田宮まではごく近い。

さらには推古紀 22 年条においても 5 月 5 日（ユリウス暦 614 年 6 月 17 日）に薬獵を行ったと伝えている

また、天智紀 7 年条においても 5 月 5 日（ユリウス暦 668 年 6 月 19 日）の夏至にも蒲生野で薬獵がなされた。蒲生野は近江国蒲生郡の地（現在の近江八幡市から八日市市にかけての一部）で、蒲生野地名そのものが、大穴牟遲神に教えられて蒲黄<sup>かまのはな</sup>で火傷を治した稲羽の素兎<sup>しろさぎ</sup>の話が神代記に見えるように、古代日本で火傷の治療に用いられた蒲の自生する野を意味している。この蒲生野の一郭に、貴重な薬草である紫草を栽培する薬園があり、野守がそれを管理していた。通説では紫野を紫草園と解するのに対し、瀧川政次郎氏の独自の説では、即ち紫野は紫草の自生地として有名であったのではなく、立入禁止の禁野を意味する紫禁野の秘訓であった。

これらが王権の獵場とされた理由としては薬獵の地の自然の豊さを挙げることができる。豊富に生息する鳥獸および様々な薬草の自生等、すでに 5 世紀後半には穴人部<sup>ししべびと</sup>や鳥養部<sup>とりかいべ</sup>の部民らが宇陀に設置されており、その頃には王権の絶好の獵場としていたことが知られる。さらには薬獵の地と神仙思想との結びつきが考えられ、採取された薬が『本草集注』に記載される仙薬として服用されたことにある。

## 略 歴

和田 萃（わだ あつむ）（1944年2月生）

満州国遼陽市生まれ。生後間もなく日本に移り、奈良県磯城郡田原本町で育つ。

### 学 歴

京都大学文学部卒業、1972年同大学院文学研究科（国史学専攻）博士後期課程中退。

### 職 歴

京都大学助手、1975年京都教育大学講師、1977年助教授、1988年教授、2007年定年退任、名誉教授。この間、奈良県立橿原考古学研究所指導研究員を務める。

1997年「日本古代の儀礼と祭祀・信仰」で京大文学博士。

### 研究分野

専門は日本古代史。

日本古代の思想や文化、木簡などを研究。

『古事記』『日本書紀』などの文献のみならず、大学院生時代から考古学研究会にも所属し、考古学にも明るい。

歌人でもあり、前登志夫主宰「ヤママユ」の同人である。

### 著 書

『大系日本の歴史2 古墳の時代』小学館（1987）

『大神と石上 神体山と禁足地』筑摩書房（1988）

『日本古代の儀礼と祭祀・信仰』全3巻 塙書房（1995）

『古代を考える 山辺の道 古墳・氏族・寺社』吉川弘文館（1999）

『飛鳥－歴史と風土を歩く』岩波新書（2003）

『聖徳太子伝説 斑鳩の正体 史話日本の古代 第5巻』作品社（2003）

『ヤマト国家の成立 雄略朝と継体朝の政権』（新・古代史検証日本国の誕生）文英堂（2010）

『大和路古事記を巡る』奈良新聞社（2013）

『古代大和を歩く』（歴史の旅）吉川弘文館（2013）

ほか多数

## 胃腸妙薬の陀羅尼助 —伝承から科学まで—

銭谷 伊直（薬剤師・森林インストラクター）

### 「陀羅尼助」の由来

飛鳥時代の斉明天皇3年（657）のこと、内大臣の藤原鎌足が、急に腹痛に苦しみ、禪尼法明が維摩経を唱えて治したといわれるが、一説によると、実は修験道の開祖役行者（えんのぎょうじゃ）が調薬によって治したと伝えられている。この時の秘薬はどうも原始「だらにすけ」らしい。



その頃、疫病が大和、河内、摂津から山城、近江と広がり、この時、役行者は自分の道場である茅原寺（今の奈良県御所市茅原吉祥草寺）の門前に大釜を据えて薬草を煎じて吞ませた。さしもの大流行も治まり、役行者に対する民衆の信頼は一層高まった。現在、御所市の茅原には、陀羅尼助発祥の地ともいわれる「陀羅尼ダラジ」と呼ばれる地名がまだ残されている。さて、役行者には、生駒の山中で弟子にした前鬼と後鬼がおり、大峰山中に多いキハダの樹皮から万病に効く「だらにすけ」の製法を後鬼に伝授したのが、大峰山麓洞川（どろがわ）村の陀羅尼助の起源と伝えられている。この陀羅尼助の名前の由来は、本剤が和漢薬の中でも数少ないエキス剤であって強い苦味を有するので、昔僧侶が陀羅尼経を唱えるときに、口にふくんで睡魔を防いだのでこの名があるという。

### 江戸期から戦前の陀羅尼助

史実上、陀羅尼助の名が出てくるのは専門の医・薬学史書ではなく、延享4年（1747）に大坂竹本座で上演された文楽浄瑠璃『義経千本桜』に、「洞川の陀羅尼助」がでくる。寛延4年（1751）上演の『役行者大峰桜』にも苦味ばしった男役の「陀羅助」が口上を唱えて登場する。陀羅尼助は修験道の発展にともない山伏達の持薬として諸国にもたらされ、遠く江戸にも送られ、文化年間（1804～1818）には大伝馬町相模屋治兵衛が取扱っていた。効能は「第一大人小兒腹一切によし」と腹薬の万病薬の他、打身から眼病までの効用を唱えていた。

「だらすけは腹よりはまず顔にきき」。これは天保時代に流行した川柳の句であるが、江戸時代

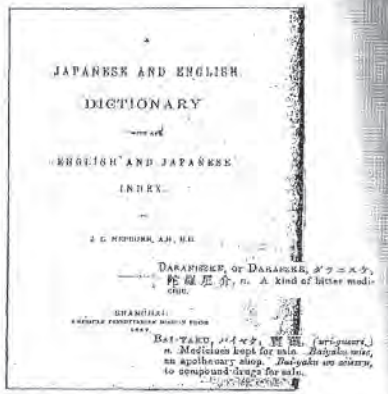
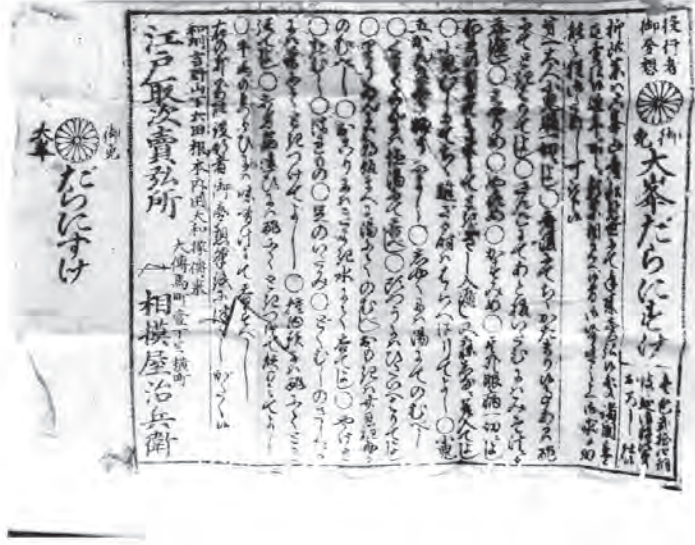


図 13. ヘボン式ローマ字の創始者ヘボンの和英辞書（慶応3年）にある陀羅尼助と先薬の解説。上海米園長老教会伝道出版部

A JAPANESE AND ENGLISH DICTIONARY WITH AN ENGLISH AND JAPANESE INDEX.  
BY I. C. HEPBURN, A.M., M.D.  
SHANGHAI, AMERICAN PRESBYTERIAN MISSION PRESS, 1867.



に陀羅尼助が民衆の中に、かなり普及していた事実をあらわしていると同時に、強烈な苦味をもつ薬であることを的確に表現している面白い句である。

幕末、ヘボン式ローマ字の創案者である米人医師ヘボンが創刊した、日本で最初の和英辞典「和英語林集成」（慶応3年）にも、売薬としてダラニスケが載っている。ヘボンは何回となく患者の口から「だらにすけ」という言葉をきいたに違なく大江戸では陀羅尼助の評判は高かったようだ。胃腸薬としての「陀羅尼助」の主成分はアルカロイドのベルベリンとその同族体などである。ベルベリンには消炎作用もあり、古来から陀羅尼助は、打ち身や捻挫、眼病にも応用されてきたが、昭和50年代の一般薬再評価により、これらの効能の他、皮膚病や頭痛などの効能が削除され、胃腸専門薬となっている。いろいろの書物には、陀羅尼助は歴史が古いとは書いているが、具体的な年代などの証拠となる書籍・記録がなく大抵は推定に過ぎません。

## 略 歴

銭谷 伊直（ぜにたに いなお）（昭和14年4月26日生）

奈良県吉野郡天川村洞川（どろがわ）生まれ

### 学 歴

昭和33年3月 奈良県立畝傍高等学校卒業

昭和37年3月 岐阜薬科大学製造薬学科卒業

### 職 歴

昭和37年4月 塩野義製薬株式会社入社 学術部

昭和48年4月 佐藤薬品工業株式会社 入社

平成20年6月 上記 退職（役職 専務取締役）

### その他

日本製薬団体連合会 薬効委員会委員

同 GMP 委員会委員

同 薬制委員会委員 を歴任

### 追 記

銭谷 武平（ぜにたに ぶへい）（1920～2014.4）

奈良県吉野郡天川村洞川（どろがわ）生まれ

岐阜薬専（現岐阜薬科大学）卒業

九州大学農学部 大学院 卒業 農学博士

長崎大学水産学部教授（昭和59年 退職）

長崎大学名誉教授



## シンポジウム

### 森野旧薬園から発信する生薬国産化のキーテクノロジー

高橋 京子（大阪大学総合学術博物館 兼 大学院薬学研究科）

#### 1. はじめに

史蹟・森野旧薬園（：薬園 奈良県宇陀市）は現存する日本最古の植物園である。1729年、森野初代藤助賽郭（：賽郭 1690-1767）により創始され、8代将軍徳川吉宗が推進した薬種国産化政策の一端を担った。幕府の施策は①朝鮮人参の国内栽培の実現と、②国内薬用資源の探査・採薬し、輸入薬種に劣らぬ国産薬種の開発で、薬種殖産の成功例とされる。賽郭は幕府御薬草御用植村左平次が実施した多くの採薬調査に協力した功により幕府から貴重な外国産薬用植物の種苗を下賜され自宅内薬園で薬種育成や野生種の栽培化に尽力した。また中国渡来の薬物知識である本草学の研鑽に努め、その研究は手稿真写 松山本草に結実する。薬園は数百年の時を経てなお大和の地に旧態を残す。賽郭から始まる薬種国産化の理念は、伝統殖産の暗黙知として江戸期の自然を残す薬園と共に温故知新の示唆に富む。本シンポジウムでは、松山本草に描かれた生薬と薬園内に生息する植物の検証に基づき、江戸享保期の薬種国産化政策と薬園の資源植物学的意義を考察することで生薬国産化のキーテクノロジーを探る。

#### 2. 賽郭真写「松山本草」と生薬栽培の伝統

森野家は450年間葛粉の製造（吉野本葛）を生業として現在に至る。賽郭以降、子孫代々藤助を名乗り初代の志を継いで家業と薬園の維持・拡充に努力した。松山本草は260年間、門外不出の森野家至宝でその存在は一部の研究者以外あまり知られていない。演者は森野家の協力で初めて全巻電子化し全容を調査した。本書は、草上、草下、蔓草藤、芳草／灌木、山草／湿草／毒草、水草／石草、穀菜、木、鱗虫／禽獸、介の10巻から成る。植物だけでなく動物を含む彩色された1003種の生物が描かれている。植物体は地下部の薬用部位まで精密に描写し、植物名や開花期が付されていた。

賽郭が1729-1740年の間に幕府から下賜された外国産薬種は30種以上に及ぶ。1735年拝領の中国産防風の基原種は、中国東北部からモンゴルに自生するセリ科ボウフウ *Saposhnikovia divaricata* Schischkin の根及び根茎で、草下巻3頁に描かれている。輸入種導入から藤助防風として今に至る特筆すべき薬種である。当帰も中国渡来種だが、現在、基原植物は日中間で異なる。

中国はカラトウキ *Angelica sinensis* Diels だが、日本のトウキ *A. acutiloba* Kitagawa は大深当帰を指し野生種ミヤマトウキが栽培化されたものとされ、大和当帰として流通した。細い根を馬尾状につける大和当帰の品質は芽クリなど伝統的栽培技術で育成・開発された。現在も奈良で栽培される当帰・川芎・芍薬・地黄いずれも松山本草に描かれ、大和地方の気候・風土に順応して盛んに栽培された歴史事象を裏付ける。

薬園の現況は年間を通じた植物相調査を実施し 128 科 531 種の維管束植物と 28 種の RDB 掲載植物を確認した。斜面の草地は積極的な種植を行わず、生育環境管理のもと自然実生繁殖による二次的自然環境を再現する半栽培法で里山的生物多様性が維持されていた。

### 3. 今なぜ薬種国産化か～漢方の国際標準化競争

現在、市場のグローバル化のもと、漢方薬原料である生薬の基原種はその大半を野生植物に依存するため、資源小国・日本は使用生薬の絶対量不足が自明で、漢方薬産業は終焉に達する危険を孕む。更に生薬資源に対する生物多様性条約関連の法規制は①遺伝資源の利用、②薬効や有効性などに関する情報を包含する伝統知識の利用の両方が対象となり、研究や産業の発展を阻む資源ナショナリズムが顕在化している。日本の生薬自給率は 12% で、使用量の大半が中国からの輸入による。生薬市場を巡る国際的動向は急激で、特に中国政府が国内需要の最優先、中医学の国際標準化政策を強化すれば輸出規制は当然となる。日本が生薬資源を安定確保するには国内での自給率向上が喫緊の課題とされる所以である。

以上、歴代藤助らが貫いた薬草栽培の理念と実践力を検証できる史蹟・薬園が現存することは、日本で開発・進化してきた生薬と品質／篤農技術の独自性を明確にする根拠となり、国際標準化や資源ナショナリズムを見据えた中国医学との差別化を可能にすると考えられる。

## 略 歴

高橋 京子（たかはし きょうこ）（昭和 30 年 3 月 24 日 香川県生）

### 学 歴

昭和 52 年 3 月 富山大学薬学部薬学科卒業  
昭和 63 年 3 月 薬学博士（富山医科薬科大学／指導 難波恒雄教授）  
（培養心筋細胞を用いた Adriamycin 心毒性に関する研究）

### 職 歴

昭和 52 ～ 55 年 大阪大学医学部附属病院薬剤部薬剤師  
昭和 55 ～ 61 年 神戸学院大学薬学部生化学講座助手  
昭和 61 ～平成 6 年 大阪大学医学部第三内科循環器研究室研究員  
平成 4 ～ 6 年 カンサス大学薬学部・薬理学講座研究員  
平成 7 ～ 18 年 大阪大学大学院薬学研究科臨床薬効解析学助手  
平成 16 年～ 富山大学和漢医薬学総合研究所協力研究員  
平成 18 年～ 大阪大学総合学術博物館資料基礎研究系（兼）  
大学院薬学研究科伝統医薬解析学准教授  
平成 22 年～ （兼）適塾記念センター准教授  
平成 25 年～ （兼）高知県立牧野植物園上席研究員

### 研究分野

薬用資源学・臨床生薬学・漢方薬学・文化財科学

- 持続可能な生薬資源の安定供給と生物多様性保全に関する研究
- 高品質生薬を医療現場に提供するための国際標準化インデックスの探索と活用研究
- 文化財科学：非破壊的分析法の開発と復元応用研究

### 著作など

- ◆ 森野旧薬園と松山本草 薬草のタイムカプセル（大阪大学出版会 2013）
- ◆ 森野藤助賽郭真写『松山本草』 森野旧薬園から学ぶ生物多様性の原点と実践（大阪大学出版会 2014）
- ◆ 漢方今昔物語 生薬国産化のキーテクノロジー（大阪大学出版会 2015）

## シンポジウム

### 近現代奈良の薬業小史

武知 京三（近畿大学名誉教授）

江戸時代中期に成立した大和売薬（置き薬）は、富山売薬が藩の保護奨励を得て発展したのに対し、民間のビジネスとして定着したという相違がある。「先きに使用してもらい、後で代金を頂く」という、独特の「先用後利」の商法に特徴がある。配置員があらかじめ得意先へ薬を預けておいて、次回回商の際に使用した分だけ代金を集め、残りは新しいものと入れ替えてくる販売システムである。その成立基盤は薬草に富んだ地方であったことに加えて、修験・信仰との結びつきが強かったといえる。大和諸寺における医薬の活動、有名な陀羅尼助に関する伝承などが大きい。そして売薬業者は高市郡・南葛城郡・吉野郡を中心に分布し、次第に行商圈を拡大して行くのであった。耕地の狭い葛村の場合などは稲作の農閑期に売薬行商に出かけるのが、またとない現金収入を得る道であった。

明治維新の変革過程で旧高取藩の士族の中に売薬業へ転ずる者が現れた。旧富山藩士の中にも売薬業に転ずる者が多く、金禄公債が支給されると、大和とは異なり、近代産業たる国立銀行や電力業の有力な担い手になるケースもあった。洋薬を重視する明治政府は、科学的根拠のない売薬は「無効無害」であるとの方針を堅持するが、配置薬は庶民の支持を得ていった。1877年1月の「売薬規則」で売薬業者は「製薬を主としている売薬営業者、販売を主とする請売者、さらに薬を売り歩く行商者」の3つに分けられ、免許鑑札の取得を義務づけた。営業鑑札・請売鑑札・行商鑑札は満5年を期限とされた。82年7月には、葛上郡の売薬業者111人が売薬の「有効無害」を主張すると共に、売薬印紙税規則修正を嘆願したが、何ら効果を得ることなく終わり、後者は翌年1月から施行となる。86年6月日本薬局方が制定され、洋薬を含めた処方改良がみられるようになる。

明治後期になると、政府の在来的売薬観は微妙に変化する。先鞭をつけたのは、皮肉なことに率先して西洋医学を受け入れ、漢方医学を否定したはずの軍部であった。大和では南捨次郎（のち日本売薬〈株〉社長）が陸軍軍医松本良順（のち順と改名）の処方による「シベリア風邪薬」を松本の半身像を商標として全国的に販路を拡大したことで知られる。陸軍が開発した整腸剤「征露丸」（正露丸）は軍用薬の代表であろう。09年貴族院の一議員が「政府ノ無効無害主義ヲ追及」したことがあり、政府の売薬観も一部効用を認め、「無効無害から有効無害へ」、万能薬から効能薬へと変わった。売薬業界では、前述の売薬印紙税規則を「禁止的」ともいえる重税と受け止めた。

一見すれば定価の1割となっているが、すべて切り上げで算定されており、配置薬につきものの未使用分の回収・廃棄を考慮せず、全く代金収入のない返却分の印紙は営業者の負担で廃棄されねばならなかったからである（のち多少緩和される）。このほか慣例化していた値引きの問題もあり、確かに実質的にはかなり重税といえる。

1914年3月売薬法の公布をみる。政府は売薬も科学的合理性を持たねばならぬとして業界近代化のための法的措置を講じたのである。大和売薬同業組合（1911年設立、構成員は製造業者・請売業者）時代に「行商人心得」をつくって販売の充実を期していた。第1次世界大戦期、新薬の国産化の契機が訪れるや、政府の国産化奨励策を背景に、道修町の武田・塩野義・田辺などは洋薬取り扱い・薬種問屋（商業資本）から製薬メーカー（産業資本）へ企業体質を変えていった。業態の違う大和売薬も一部会社組織化の進展をみるが、家内工業的色彩が強く、「売子兼製造」が多数を占め、大部分は個人企業であった。売薬営業への新規参入の系譜をみておくと、維新前後の20年間（1887年頃）までは代々の薬業家やいわゆる名家・旧家が多い。その後の10年間（1897年頃）はその比率が低下し、代わって農家出身者や斜陽的な在来産業からの転・兼業が目立ってくる。それ以降は、行商経験者から製剤者への上昇転化が多くなる一方、商家からの参入もみられた。

1926年3月一連の税制改革の1つとして営業税・売薬税は廃止されたが、代わって営業純益を課税標準とする営業収益税の創設をみる。売薬業界が多年その廃止を訴えていた売薬印紙税廃止によって、売薬営業者の経費負担は軽減され、そのうえ印紙税分の払戻しがあったから、一時的に新付けブームが起こった。同業組合では「定価一割引下」を決議したが、まもなく昭和恐慌の影響をモロに受け、代金回収は停滞する。同業組合は恐慌からの脱却・大和売薬業界の基盤づくりのため、(1) 売薬営業者の地方政界への進出、(2) 配置員の養成機関として奈良県薬学校の設立、(3) 売薬試験場の設立、(4) 博覧会への売薬出品、(5) 大和売薬の海外進出などに取り組んだ。戦時体制期の経済統制は売薬業にも及び、懸案の大和売薬工業組合の結成、そして正価販売の徹底や最高販売価格の指定などが行われた。生産部門の企業整備は、最終的に地区別・業態別の統合に落ち着いた（配置売薬8社、本舗売薬1社、輸出売薬1社の計10社）。販売部門は奈良県配置売薬商業組合の設立、そして強制的に一戸一袋制を実現する。国策に沿ったものだが、業界は大混乱し、戦後の再出発にもマイナスとなった面は否めないだろう。43年3月統制色の濃い薬事法が公布された。従来の諸法規を統合したもので、「売薬」は「家庭薬」と改称されることになる。私立奈良県薬学校（のち組合立の奈良県薬学商業学校と改称）は、戦争末期に廃校。

協和製薬公司は戦争のためはかない夢に終わった。

戦後については、終戦直後の「現売」の横行、第1次企業再編成の特徴、薬業団体の再建、そして駆虫剤（サントニン）、ハッカゴム膏の人気などに言及する。1948年7月新薬事法の公布により薬の販売は薬局・薬店・配置販売（家庭薬）の3本立てとなり、配置販売業の業態が明確化される。国民皆保険制度に続く、WHOの勧告を契機とするGMP（医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準）実施による配置薬業界の構造変化については一定の言及をしたいと思う。最後に、企業者史的視点から、少し奈良県薬業界の特質にも触れることにする。

## 〈参考文献〉

『奈良県薬業史』資料編・通史編（奈良県薬業連合会、1988、1991）

前田長三郎『大和売薬史』（奈良日報社、1933）

橋爪勝次『配置売薬業の研究』（自費出版、1985）

日本薬史学会編『日本医薬品産業史』（薬事日報社、1995）

銭谷武平・銭谷伊直『陀羅尼助』（薬日新聞社、1986）

鈴木昶『日本の伝承薬』（薬事日報社、2005）

### 自治体史

『葛村史』1957

『御所市史』1965

『高取町史』1964

『橿原市史』1987 など

### 社史

三光丸同盟会『同盟人百年の軌跡』1999

成光薬品工業株式会社『百年史』2004

『大峰堂薬品工業株式会社100年史』2000

『共に立つ—共立薬品工業創立50周年記念誌』1998

『田村信一と田村薬品工業株式会社』1991

『佐藤薬品工業50年の歩み』2001）

その他拙著2点（著作の8・10） など

## 略 歴

武知 京三（たけち きょうぞう） （昭和 15 年 5 月 15 日 中国東北部生）

### 学 歴

昭和 40 年 3 月 北九州大学商学部（現北九州市立大学経済学部）卒業  
昭和 42 年 3 月 大阪府立大学大学院経済学研究科修士課程修了  
昭和 45 年 3 月 大阪府立大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学  
昭和 45 年 10 月 大阪府立大学大学院経済学研究科へ内地留学  
「近代地方産業史の研究」（昭和 46 年 3 月まで）  
平成 5 年 1 月 京都大学博士（経済学）

### 職 歴

奈良県立短期大学助手・講師、花園大学文学部助教授などを経て  
昭和 55 年 4 月 近畿大学短期大学部助教授  
昭和 58 年 4 月 近畿大学商経学部助教授（商経学部商学科へ移籍）  
昭和 60 年 4 月 近畿大学商経学部教授  
平成 5 年 10 月 近畿大学商経学部商学科長（平成 10 年 9 月まで）  
平成 10 年 10 月 近畿大学商経学部長補佐（平成 11 年 3 月まで）  
平成 11 年 4 月 近畿大学短期大学部長（平成 14 年 9 月まで）  
平成 14 年 10 月 近畿大学商経学部長（平成 20 年 3 月まで）  
平成 15 年 4 月 近畿大学経済学部教授（商経学部の分離改組による）  
近畿大学経済学部長（平成 19 年 3 月まで）  
平成 19 年 3 月 近畿大学定年退職  
平成 19 年 4 月 近畿大学経済学部特任教授（平成 21 年 3 月まで）  
学校法人近畿大学理事（現在に至る）  
平成 21 年 4 月 近畿大学名誉教授



## 受賞

昭和 62 年 3 月 交通図書賞受賞（『日本の鉄道—成立と展開』、分担執筆、日本経済評論社、昭和 61 年 5 月）

平成 5 年 11 月 日本交通学会賞受賞（『近代日本交通労働史研究—都市交通と国鉄労働問題』、単著、日本経済評論社、平成 4 年 9 月）

## 著作

1. 『近代中小企業構造の基礎的研究』、雄山閣出版、昭和 52 年 4 月
2. 『明治前期輸送史の基礎的研究』、雄山閣出版、昭和 53 年 4 月
3. 『都市近郊鉄道の史的展開』（鉄道史叢書 3）、日本経済評論社、昭和 61 年 7 月
4. 『日本資本主義と地場資本—関西の地場産業史研究』、雄山閣出版、平成 2 年 7 月
5. 『日本の地方鉄道網形成史—鉄道建設と地域社会』、柏書房、平成 2 年 10 月
6. 『近代日本交通労働史研究—都市交通と国鉄労働問題』（鉄道史叢書 7）、日本経済評論社、平成 4 年 9 月
7. 『近代日本と地域交通—伊勢電と大軌系（近鉄）資本の動向』（日本資本主義史叢書・中村哲・下谷政弘監修）、臨川書店、平成 6 年 12 月
8. 『近代日本と大和売薬—売薬から配置家庭薬へ』、税務経理協会、平成 7 年 9 月
9. 『近代日本と地域産業—東大阪の産業集積と主要企業群像』税務経理協会、平成 10 年 10 月
10. 『地域経済と企業家精神—奈良の地場産業と経済団体の歩み』、税務経理協会、平成 12 年 9 月

## 研究分野

近代日本の地域産業・交通史に関する研究

# 一 般 講 演

午前の部

9 : 40 ~ 10 : 28

一般演題 1 ~ 4

午後の部

15 : 12 ~ 16 : 00

一般演題 5 ~ 8

## 一般演題 1

### 医薬品の一般名に関する考察 (4) : 抗菌薬の名称

三澤 美和 (日本薬科大学、星薬科大学名誉教授)

わが国で市販されている抗菌薬として、サルファ薬の登場後、第二次世界大戦直後から今日いたるまで抗生物質や化学療法薬を含めて種々の抗菌薬が続々と市販され、臨床現場で使用されている。本発表では、これら抗菌薬の一般名の命名由来について考察を試みた。

わが国市販抗生物質の登場は1948年のbenzylpenicillinを嚆矢とする。penicillinの名称は真菌である青カビ *Penicillium notatum* から発見されたということで、penicill+in (医薬品の語尾) から成り立っている。同様にβ-ラクタム系に属するcephalosporinは起源真菌である *Cephalosporium acremonium* にちなんでcephalosporinと命名された。アミノ配糖体系抗生物質であるstreptomycinは、放線菌ストレプトマイセス属に分類される *Streptomyces griseus* にちなんでstreptomycinと名付けられた。以後放線菌から相次いで抗生物質が発見されるが、ストレプトマイセス属から発見された抗生物質は原則的には語尾に-mycinをつけることになっている。マクロライド系抗生物質erythromycinは、放線菌 *Streptomyces erythreus* から名がついた。erythreusは“赤い”の意でその放線菌の色にちなむ。リンコサミド系抗生物質lincomycinは、放線菌 *Streptomyces lincolnensis* (米国リンカーン市の土壌から) の名に拠る。ポリペプチド系抗生物質の1つであるpolymyxin Bは、グラム陽性芽胞桿菌 *Paenobacillus polymyxa* から、また同系抗生物質teicoplaninは、起源放線菌 *Actinoplanes teichomyceticus* にその名をちなむ。

構造式に由来する命名には、テトラサイクリン系抗生物質tetracyclineがある。4つの六員環で構成されているのでtetra (4つ)+cycle (環)+inと命名された。chloramphenicolは、構造式中にchlor、amide、phenyl、アルコール性水酸基 (-col) を含むことによる。商品名のような異色の命名に、vancomycinがある。MRSAにも有効であるとして、vanquish (打ち破る)+mycinとした。この薬物は放線菌 *Nocardia orientalis* 由来であり、ストレプトマイセス属ではないが、抗生物質の代名詞的な-mycinをあえて付与したようである。

化学合成抗菌薬であるキノロン系抗菌薬では、ciprofloxacinのように-oxacinがstemとなっている。キノロン系はすべて構造式中にカルボキシ基 (-COOH、carboxylic acid) を有していることを利用している。

本研究では抗菌薬の一般名の語源を考察した。抗菌薬の種類や数は非常に多い。その名前は、起源微生物、構造式、薬理作用といった要素に由来することがほとんどである。薬物名を分類し覚える場合、こうした命名由来を知ること容易になる。薬の名は、薬の発見、開発、治療への導入と結びついて、その薬固有の歴史を反映しているといってもよい。

## 一般演題 2

### 米国における医療大麻のコンパッショネート・ユース制度の歴史

○宮路 天平<sup>1</sup>, 山口 拓洋<sup>1,2</sup>, 津谷 喜一郎<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 東京大学大学院医学系研究科臨床試験データ管理学講座

<sup>2</sup> 東北大学大学院医学系研究科医学統計学分野

<sup>3</sup> 東京大学大学院薬学系研究科

昨 2014 年会 (福岡) での「Cannabinoid-based medicines の歴史と本邦における規制について」<sup>1)</sup> に引き続き、米国でのコンパッショネート・ユース制度 (CU 制度) の中での医療大麻について取り上げる。

CU 制度は、重篤疾患患者や治療法が未確立の難治性疾患の患者を対象に、未承認薬へのアクセスを可能性にさせる公的制度である。本邦でも平成 28 年度から日本版 CU 制度の導入が検討されている。日本版 CU 制度は、治験終了後から承認までの承認申請期間に「人道的見地からの治験」を実施し治験薬へのアクセスを可能にさせる制度であり、運用範囲を絞って制度化を目指している。一方、米国では、大麻のような規制物質法でスケジュール I に指定されている指定植物に対する医療的アクセスも CU 制度として運用しており、CU 制度は広い概念として捉える事が出来る。

米国における医療大麻の CU 制度は、1976 年に FDA の連邦政策として始まり、1991 年までに 34 名の患者がプログラムに参加している。また州単位では、州法による CU 制度として、1990 年代後半から徐々に米国全土に広がり、2015 年 9 月時点では、24 の州とコロンビア特別区で運用がなされている。医療大麻の CU 制度成立の背景には、大麻による治療を受ける権利を得るために、連邦当局に対する裁判や、住民投票による州法制定など、患者らの積極的な働きかけがあり、それにより制度化が実現している。本発表では、米国における医療大麻の CU 制度の広がり の歴史を、年譜をおいながら分析し、また現在の運用状況を考察する。

#### 参考文献

- 1) 宮路天平, 山口拓洋, 津谷喜一郎. Cannabinoid-based medicines の歴史と本邦における規制について. 薬史学雑誌 2014;49 (2) : 234.

## 一般演題 3

### 「ウルユス」と「ホルトス」の製造本舗に関する考察

野尻 佳与子（奈良女子大学大学院 人間文化研究科）

江戸末期、19世紀に入ると西洋文明に対する期待がますます膨らんだ。医師の間で蘭方医学が盛んになっただけでなく、民衆の間では蘭方薬を装った売薬が人気を集めた。売薬の起源は、阿蘭陀人医師から授かった処方をもとに創薬したと騙られ、カタカナの薬名がつけられるだけでなく、アルファベットや「根元 長崎」といった文字が看板や引札などに表記された。

ウルユスについては、巧みな宣伝方法や斬新なネーミングが話題として取り上げられることも多く、江戸後期に松浦静山（平戸藩主）や暁鐘成（戯作者）、M20 坪井正五郎（民俗学）、M22 大槻文彦（言語学）、M34 宮武外骨（ジャーナリスト）、T6 田中香涯（医学）、S9 豊田実（英語学）、S11 山崎佐（法医学）、S13 奥山儀八郎（木版画家）、S13 森斧水（薬局店主）S24 清水藤太郎（薬史学）、S44 小川鼎三（医史学）、S54 宗田一（薬史学）、S59 三島佑一（国文学・松尾家縁戚）、H6 吉岡信（薬史学）、H7 柴田南雄（音楽学）、H8 米田該典（薬史学）などによる言説があるが、ウルユス創業者の出身や販売期間などは正確に定まっていない。また、ホルトスに関してはウルユスに酷似した売薬という程度にしか知られていない。

本報告は、製造本舗である健寿堂と観生堂について明らかにするとともに、長崎と大阪に関するルーツの真偽について考察したものである。

**【健寿堂：ウルユス】**（根元長崎？本店大阪）松尾丈右衛門（安永9- 嘉永5）大分鶴崎出身  
大阪淡路町4丁目（文化9-M44）…売却後は鴻池家の大阪美術俱樂部があった（M44-S22）

現在：大阪府中央区淡路町3丁目6-3 NM プラザ御堂筋

西区立売堀二丁目17-1（M44-S20. 3. 13：空爆により店舗消失）

現在：大阪府西区新町一丁目14-21 ひびきの街（オリックスホール横）

最後の継承者：松尾重一郎（M35-）婿養子 長野出身 東京大学薬学部 S2 卒 服部健三教室

価格：15粒入（1匁）／32粒入（2匁）／65粒入（4匁）／130粒入（8匁）

贋薬に注意の引札あり。暁鐘成作「ウレヤスの評判」という小断にも登場した。

**【観生堂：ホルトス】**（根元長崎？本店大阪）大橋喜兵衛

大阪長堀橋1丁目南（嘉永3頃からM44過ぎまで薬舗営業）

現在：大阪府中央区島之内1丁目21番地 オリエンタル堺筋ビル

価格：16粒入（1匁）／35粒入（2匁）／72粒入（4匁）／150粒入（8匁）

適応症は62項目、急性疾患にも適応。効能書に阿蘭陀人の持薬という記載あり。

**【長崎と大阪についての考察】** 両売薬ともに「長崎」の地名は、明治初年頃まで表記されている。長崎市に明治5年創業「竹谷健寿堂」という薬局が現存するが、ウルユスの松尾健寿堂との関連性はない。蘭方薬のイメージを付加するための地域ブランドとして利用されたことが推察できる。この他に「テルメル」「ユルメル」「フルイム」「キナキナ圓」「メデセイン」などの蘭方薬もあり、大阪道修町とも程近い淡路町や備後町などには売薬を製造販売する薬舗が点在していた。

本報告は武田科学振興財団の2014年度杏雨書屋研究奨励による研究成果の一部である。

## 一般演題 4

### 韓国近代薬学教育 100 年の歴史

○沈 昌求 (Chang-Koo Shim)、金 鎮雄 (Jinwoong Kim)、張 允二 (Yuni Jang)

(韓国ソウル大学薬学部)

ソウル大学薬学部は 1915 年 6 月 12 日、朝鮮薬学講習所に開校して以来、1918 年朝鮮薬学校に発展し、1930 年京城薬学専門学校に昇格された、光復後の 1946 年 9 月には (私立) ソウル大学薬学部に、1950 年 9 月 30 日には国立ソウル大学に編入される過程を経て今日に至った。今年には韓国に近代薬学教育が設立されてから 100 周年になる年である。

朝鮮薬学講習所、朝鮮薬学校と京城薬学専門学校は、光復直後まで韓国の唯一の近代薬学教育機関であった。ただし、京城薬学専門学校時代に至るまで、これらの教育機関の在籍者数の 3 分の 2 が日本人であり、韓国人は 3 分の 1 程度であった。この植民地体制下での近代薬学教育を受けた韓国人たちが存在したため、1945 年光復後、大きな空白期なしに韓国の薬学教育、製薬と薬業が持続的に発展することができた。

1945 年には、梨花女子大学に薬学科が設立された。韓国戦争が休戦した 1953 年に中央大学、淑明女子大学、成均館大学、釜山大学等に薬学が新設されて以来、1982 年まで年次的に多くの薬学大学 (薬学科) が新設され、韓国内の薬学部の数 は 20 校に至った。学校の学生数は 40-100 人程度だった。2011 年 3 月に定員 40 人未満の 15 個の薬学部が新設され現在薬学部の総数は 35 校となった。韓国の薬学大学で薬学博士号が排出されたのは、1962 年ソウル大学の洪文和 (ホンムンファ) 教授が最初だった。2000 年 8 月に医薬分業が実施され、2009 年 6 年制薬学教育が実施され始めた。

ソウル大学薬学部では、今年 6 月 12 日近代薬学教育 100 周年を迎えて記念シンポジウムと薬学歴史館開館などの記念行事を盛大に開催した。

今回の発表では、ソウル大学薬学部の前身である薬学教育機関での教育制度、韓国の薬学部の現状と記念行事について報告する。

# 備中売薬の歴史について

土岐 隆信（株式会社エバルス）

あらかじめ消費者に薬を預けて置き、消費者が使用した後、代金を請求する販売方法による配置販売業は、日本固有の販売方法であって、相互の信頼関係の上に成り立つものであり、先物後利の精神で江戸時代から行われてきた。

配置薬の主な生産地は、富山（越中売薬）、滋賀（甲賀売薬、日野売薬）、奈良（大和売薬）、佐賀（田代売薬）と今回報告の岡山県（備中売薬）の5大生産地といわれてきた。しかし、岡山県の備中売薬については、昭和53年（1978）に製造が廃止され、販売も殆んど衰退してしまったため、ここに記録をとどめるために報告する。

### 備中売薬の起こりと歴史

岡山県の南部に位置する総社市の真壁地区を中心に清音、山手などで作られ、主に中四国、九州地方へ配置に行っていた。何時頃から始まったかは不明であるが、享保20年（1735）、宝暦3年（1753）の記録が残されている。総社市三輪の浅野氏が中心となって製造、配置していたものと思われる。明治3年（1870）売薬取締規則が公布され、近代的な医薬品製造が要求されたため、個々の業者が集まり、法人化していった結果、この地域に製薬業9社が誕生した。以後、製造販売は盛んとなり、北海道から九州、大陸まで販売が行われたと言う。日中戦争が始まり、全国的に薬の原材料の入手が困難になり、製造に支障をきたすため統制が始まり、昭和17年（1942）に8社が統合し、東亜製薬統制株式会社が設立された。戦時中の1県1企業体の趣旨に基づき、県内の製薬業者・家伝薬製造者の企業合同が行われ岡山県製薬株式会社が誕生した。また、全国の懸場の整理が行われ、備中売薬の配置先が兵庫県以西（中四国、九州）とされた。備中売薬の看板薬は「犀角湯」「たこ薬」であった。戦後は、岡山県製薬株式会社から、昭和24年（1949）に関西製薬株式会社、昭和28年（1953）にキング製薬株式会社が分立し、以後3社で製造が行われ、戦後の医薬品が乏しい時には配置薬は非常に喜ばれた。昭和27年に岡山県配置医薬品連合会が設立され、講習会なども始まった。昭和30年代の年間売上高は約3億円であった。昭和47年の製造品目数はワンダー化成株式会社（元岡山県製薬）36品目、関西製薬株式会社は19品目、キング製薬株式会社は15品目であった。昭和53年（1978）全社が製造業を廃止した。

当時の配置販売業者（帳主）配置員数は、昭和32年（1957）には384名であったが、平成18年（2006）には37名まで減少したと言う。

### 岡山県と他県との関係

富山藩前田正甫公は備前の11代万代常閑を招き、指導を受け、反魂丹の製造を始め、富山藩の産業振興策として大きく取り上げた。配置方法「大庄屋廻し」による配置が行われた。備中売薬との関連は明らかでない。一方、甲賀売薬の配置員が、岡山県北で「テリアカ」の処方学を学んで帰り、製造販売したのが甲賀（油日）売薬の始まりであるとの記録がある。

備中売薬が起こった理由としては、この地域の豪商の参加があり農家の農閑期の副業として、また山陽道、高梁川の高瀬舟などの交通の便の良さ、さらに気候も丸薬の乾燥に適しているため、と共に進取の気性や学問の取り組み等により発展したものと思われる。

備中売薬衰退の原因としては、わが国において医療保険制度が確立し、国民皆保険となったこと、また県南部の水島コンビナートなどへの就職による後継者不足、GMP（医薬品の製造管理に関する規範）の施行により資本投下できなかつたこと、そして、江戸時代には各藩が入り乱れた地域であり、その当時から現在まで行政の振興策があまり取られなかつたことなどが考えられる。

## 一般演題 6

### 石見銀山「採薬稼」鑑札について

成田 研一（島根県薬剤師会江津・邑智支部）

今回、当地に現存する「採薬稼」と印された木札について紹介する。縦横約 18 センチ、厚さ 1.5 センチの木製の鑑札であり、表に「採薬稼」の焼印、裏に「大森御役所」「安政三年辰十一月」の焼印がある。旧家に保管されていたもので、現在は石見銀山資料館に所蔵されている。また別に、「島津屋口御用留（大田市朝山町）」に先の木製鑑札についての「お触れ書き」が絵図とともに記されている。

「採薬」という語については、554 年百濟から播量豊、丁字陀の二名の「採薬師」が来日（日本書紀）、時代が下がって、1720 年（享保 5）将軍徳川吉宗が各地に「採薬使」を派遣し、国内各地の採薬記が表された。当地、石州の「採薬記」は見られない

先述の「島津屋口御用留」には（安政三年）辰十一月の記載で、「支配所村々養民窮乏為追々申達候採薬之儀…」で始まり、「領内で採られた薬草を大坂道修町薬種商にみせたところ、薬品として売捌きが引き合うとのこと、役所も世話するので別記の雛形の鑑札を出せば焼印を押す。手広く相稼ぐように」の記載と、鑑札の図が添えられている。この時期の石見銀山第五十六代代官屋代増之助忠良：1853（嘉永 6 年）10 月着任、1858（安政 5 年）5 月離任：による事業であった。代官屋代増之助は当時天領大森陣屋下にあった備中の本草家中村耕雲を大森に招請し、領内の薬物探索、銀坑鉍毒の対策に当たらせた。耕雲は探索発見した産品を大阪に仕向けたことが知られており（「中村耕雲事蹟」蔵内数太著作集第五巻：1984 年発行）、代官所による今で言う地域おこしの施策であったことが伺える。「採薬稼」という用語は他では未見であり、当地で考え出された用語、事業かと思われる。また別の古文書で安政四年閏五月付けで「私共兩人備中国採薬師耕雲江入門仕、採薬製法仕宅奉存候…」という嘆願書が残されており、事業継続への地元の意向も伺えた。代官離任の後の事情は明らかでなく、以降の記録は見当たらない。



## 一般演題 7

### イタリア・フィレンツェの医薬史跡群

—新聖女マリア薬局、新聖女マリア病院、動物学博物館、ガリレオ博物館など

石田 純郎（岡山大学医学部非常勤講師）

2014年に訪れたイタリア・フィレンツェで、いくつかの医薬史跡を見学したので、報告する。フィレンツェ中央駅である新聖女マリア（Santa Maria Novella）駅近くの Via della Scala 16 番地に、（公許）新聖女マリア（香水）薬局（Ufficina Profumo Farmaceutica di Santa Maria Novella）があり、薬局内に立ち入ることができる。この薬局に隣接して、新聖女マリア教会（Chiesa de Santa Maria Novella）と修道院がある。ドミニコ会修道士たちが13世紀に創設した。この薬局は本来、病人を含む困窮者を収容したこの修道院の附属薬局であって、1612年に創設された。その後、香料調整所となり、現在、香水と石鹸を売る土産物店になっている。しかしながら、その外装および内装は歴史的な薬局そのもので、薬局内には伝統的な薬局のカウンター、その周囲に生薬を入れた多数の薬壺を収めたキャビネットが置かれ、古代ギリシア神話の医神アスクレピオス像と健康の女神ヒギエア像が立つ。天井のフレスコ画には、医師キリストや健康の女神たち（これらのほとんどが蛇が巻き付いた棒を手をしている）が描かれている。薬局の窓からは、往時、中世病院として機能した新聖女マリア修道院の中庭が見える。しかしながら現在は、単なる高級香水店に成り下がり、店員も医神や健康の女神すら理解していないことは、残念である。

これらの施設と類似した名称であるが、1キロ東の Via Bufalini 通りに、別施設の新聖女マリア病院（Ospedale de Santa Maria Nuova）がある。フィレンツェ生れの詩人ダンテ（Dante）の恋人ベアトリーチェ（Beatrice）の父で、金融業のフォルコ・ポルティナーリ（Folco Portinari,? ~ 1289）が1288年に創設した。当初、修道女テッサ夫人（Monna Tessa,? ~ 1327）が運営した。1419年には教皇マルチヌス V 世が訪問・滞在した。1507年から翌年にかけて、レオナルド・ダ・ヴィンチが住み込み実習し、人体解剖スケッチを描いた。15世紀には附属薬草園を置き、19世紀末まで薬草を提供し、病院薬剤師がそれを処方した。現在の建物は16世紀末のもので、13臨床科を擁する近代的病院として、歴史的建物の中で盛業中である。

アルノ川南の Via Romana 17 番地には、動物学博物館ラ・スペーコラ（Museo di Storia Naturale Sezione di Zoologia 'La Specola'）がある。その中に若干の歴史的医療器具、多数・多彩なワックス製人体解剖模型、若干の寄生虫標本が、展示されている。

ウッフツィ美術館南に隣接して、ガリレオ博物館（旧称 科学史博物館）があり、望遠鏡、天球儀、科学器具が展示されている。

フィレンツェは、多数の貴重な歴史的建造物や博物館を持つ、中世の雰囲気の色濃く残す大観光地であるが、ここに紹介したように、医薬史跡もまた豊富である。口演ではスライドを見て頂くつもりである。

## フリードリッヒ II 世の皇帝の書 第 3 報

The Constitution of Friedrich II (Ⅲ)

辰野 美紀 (順天堂大学医学部医史学研究室)

神聖ローマ帝国皇帝のフリードリッヒ II 世 (フェデリコ II 世) は、1231 年に、皇帝の書 *Constitutiones (Liber Augustalis)* を、更に、1231 年から 1250 年の間にその追補 (*Novae Constitutiones*) を発布した。この法令の基軸となる本文は 3 巻から成立しており、第 1 巻は、1 条から 107 条、第 2 巻は、1 条から 52 条、第 3 巻は、1 条から 94 条までで構成されている。それらは、時代的にまた地域的に異なる数種の手書き写本が現存しており、これらは、研究上、3 つのグループに分けられて分析されている。

この皇帝の書の構造を内容的に見ると、三つの特色がみられる。

第一の特色は、12 世紀から 13 世紀にわたって、南イタリアとシチリアで公布されたいくつかの法令のうち有効なものを収載していることである。最古のものは、フリードリッヒ II 世の母方の祖父であるロジェール II 世 (ロゲリウス II 世) が、1140 年に、アリアーノ (Ariano) で公布した勅令集である。一般には、医療に関する最も古い規定を含むものとも見做されている。この法令は、中世のノルマン法を基礎としている。

第二の特色は、フリードリッヒ II 世は、明確なコンセプトのもとに、大胆な手法で法令の成立にあたっていることである。かれは、当時絶大な権力を持つローマ教皇のシチリアへの介入を排除し、皇帝権の強化によって中央集権国家の建設を目指すためには、まったく新しい法律を制定する必要があることを痛感していたのである。まず、フリードリッヒ II 世は、彼自身が創設したナポリ大学の新進気鋭の法学者を中心にして、西暦 529 年に東ローマ帝国の皇帝であるユスチニアヌスが刊行したローマ法大全 (*Novus Iustinianus Codes*) の研究を命じている。そうした古代ローマ法の研究成果を盛り込んだ、カプア憲章 (*Sanctiones Capuanae*) を、1220 年に発布する。更に、続けて皇帝の宮廷に、多国籍の知能集団として、ギリシャ人、アラブ人、サラセン人やユダヤ人などの知識人を活用し、また当時最新の学問や技術を持つアラブ人を官僚として登用し、彼らの知識と情報を総動員して、今までになかった法律の制定を目指す皇帝に直属の研究集団を形成させている。それらの集大成として、1231 年、ついにメルフィー憲章 (*Constitutiones Melphitanae*) とも称される皇帝の書 *Constitutiones (Liber Augustalis)* を発布する。更に、20 年間にわたり追加規定を加筆し、追補集 (*Novae Constitutiones*) として次々に発布している。

第三の特色は、医療と薬事の内容を分析すると、医療、医薬品販売における国家管理という目標が見て取れることである。医療と薬事に関する条項は、第 3 巻に 44 条以下に集中している。たとえば、1240 年に追加された第 3 巻の 46 条 (Tit.XLVI) では、いわゆる医薬分業を規定している。ここでは、塩や絹に加えて、医薬品を扱う薬種商と調剤師に専売権を与える代わりに、彼らから高額な税を取り立てる規定が盛り込まれている。13 世紀に、高価な東洋産の生薬の取引に徴税することによって、フリードリッヒ II 世の帝国内での経済的安定を高めたことがわかる。

一般に、この皇帝の書は、西欧における医薬分業を規定した最古の法律とみなされている。しかし、この様な認識は、一面には正しく、他面では再検討が必要である。なぜなら、フリードリッヒ II 世の死 (1251 年) 後、政治体制や経済体制の変化に伴い、皇帝の書は、シチリアにおいて有効性は減じている。また更に、そのものの形で神聖ローマ帝国 (ドイツ) の各地方の法令に受け継がれたという言説は、一種の神話に過ぎないと考える。

# ポスター発表

示説時間

13:00 ~ 14:00

## ポスター発表 1

### フリードリッヒ・フォン・ハイデンと旧サリチル酸工場化学史跡について

中辻 慎一（兵庫県立大学大学院物質理学研究科）

1999年より、ドイツ化学会では、国内の化学史にゆかりのある場所を選定し顕彰することを目的として、化学史跡プロジェクトを進めている。その内で薬学史に関連したものとして、ドレスデン近郊の町ラーデビュール Radebeul にある、フリードリッヒ・フォン・ハイデン Friedrich von Heyden の設立した旧サリチル酸工場が選定されている（2012年）<sup>[1]</sup>。

その選定理由は、“130年以上前に、フリードリッヒ・フォン・ハイデン博士が、世界で最初の合成医薬品（サリチル酸）の生産工場をここに設立した。それによって、彼は近代的医薬品工業の設立者の一人として銘記される” というものである。

フォン・ハイデンは、ドイツ東部のブレスラウにて生まれ（1838年）、最初は軍人の道に進んだが、健康上の理由から進路を変え、ドレスデン工科大学にてルドルフ・シュミットのもとで化学を学んで、学位を取得した（1873年）。さらに、サリチル酸の構造と合成（1853年）を行ったヘルマン・コルベの知己を得て、それが彼をサリチル酸の大量生産への道に進ませることに繋がった。

コルベやシュミットの教示を受けて、フォン・ハイデンは純粋なサリチル酸の大量生産法を確立し、1874年に、ラーデビュールにサリチル酸の工場を開設した。その工場跡は、その後幾多の歴史の変遷を経て、現在はアレヴィファーマ Arevipharma という医薬品会社となっている。

本発表では、ドイツ化学会の化学史跡プロジェクトについて紹介するとともに、フォン・ハイデンの生涯とコルベやシュミットとの係わり、旧サリチル酸工場の変遷などについて述べる。

[1] A. Kleemann, H. Offermanns, Chem. Unsere Zeit, 2012, 46, 40.

## ポスター発表 2

### 薬種問屋から製薬企業への発展 — 二代塩野義三郎と五代武田長兵衛 —

安士 昌一郎（法政大院・経営）

本発表では、江戸期から続く薬種商がいかにして製薬企業への道を歩むようになっていったかについて企業家活動の観点から検討し、事業転換の過程における企業家の役割について述べる。原材料を買い入れ包装し流通させていた伝統的な薬種商が、危機的状況に適応するため事業転換を図り、高い技術力を必要とする研究開発を行う製薬企業へと成長し、現在まで持続させている事例を分析することにより、環境の変化に対応するトップマネジメントの意思決定と行動を明らかにする。取り上げる企業家は、明治期から大正期に活動し、洋薬の取扱いや新薬開発に取り組んだ二代塩野義三郎と、五代武田長兵衛である。

洋薬の輸入から薬品の品質確保のために試験技術を開発し安定供給を目指したことを契機とし、戦争の影響による輸入不安を肌にした先進的な企業家が製薬事業の重要性を認識し製薬事業を志向した。

二代塩野義三郎と五代武田長兵衛について、出生から自組織を株式会社に改組するまでを述べる。両者とも洋薬の直輸入において中心的な役割を果たして企業の近代化に貢献し、また先代からの製薬事業を引き継ぎ発展させ、新薬開発も成し遂げた。彼らは明治期から大正、昭和と近代製薬産業の黎明期において株式会社組織の確立、洋薬輸入から国産薬品の安定供給に移行する過程を乗り切り、かつ、新薬の研究開発の創始・強化を行った結果、現代に通じる製薬企業の礎を築いた。

二代塩野義三郎と五代武田長兵衛が為し遂げた事業改革は、結果から見れば似通ったものだった。しかしながら、その過程と順序には大きな相違点が見られた。塩野義三郎商店のケースは、優れた経営管理能力が技術力の欠落を補った好例である。武田長兵衛商店のケースでは、長い歴史を持つ企業を維持しつつ、きめ細かな管理によって段階的に環境変化への適応を行った企業家活動が見られた。明治初期の経済的逆境を跳ね返し、未経験かつハイリスクな製薬事業に挑戦した結果、日本国内で主導的かつ発展を継続する製薬企業の礎を築いた企業家として大きな評価に値する。

## ポスター発表 3

### 日本のアミノ酸系医薬品開発 50 年の変遷 (その 5)

—アミノ酸由来のアルカロイド系医薬品—

○荒井 裕美子<sup>1</sup>, 松本 和男<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>(一財)日本医薬情報センター (JAPIC), <sup>2</sup>京都大学化学研究所)

**【目的】** これまで、医療機関で使われてきたアミノ酸輸液製剤<sup>1)</sup>、アミノ酸 (誘導體) 製剤<sup>2)</sup>、ペプチド性製剤<sup>3)</sup>、タンパク製剤<sup>4)</sup> の開発の変遷について報告してきた。本発表では、続編としてアミノ酸由来のアルカロイド系医薬品 (真性アルカロイド) にはどのような品目 (数) があり、またそれらの開発の変遷などを調べることを目的とした。

**【方法】** 調査には医療用医薬品の添付文書がまとめられている JAPIC 医薬品集<sup>5)</sup> に加え、関連文献を参考にして調べた。

**【結果】** アルカロイド系医薬品は、歴史的に医薬品の原点であり、その研究・開発により医薬品創製技術が発展してきた。従って、アミノ酸由来のアルカロイド系医薬品も数多く市販されてきたと思っていた。ところが、40 品目程度であり、しかも今から約 50 年前に多くが上市されていた。

一方、時代が進むに従い、その数が激減していた。具体的には、大半は 1970 年代以前に上市され、古くから長年にわたり使われている品目が多かった。中でも、天然物の分離・抽出物から見出し医薬品をリード化合物として、その化合物の誘導體合成による半合成アルカロイド系医薬品が多かった。これらの年代別開発状況、種類、薬効、用途 (適応) などを時系列で調べた結果を考察してみたい。

#### 【参考文献】

- 1) 2007 年日本薬史学会年会 (長崎), 薬史学雑誌. 2008;43 (2) : 162-168.
- 2) 2009 年日本薬史学会年会 (金沢), 薬史学雑誌. 2010;45 (1) : 30-39.
- 3) 2010 年日本薬史学会年会 (東京), 薬史学雑誌. 2013;48 (2) : 151-159.
- 4) 2011 年日本薬史学会年会 (名古屋).
- 5) JAPIC 医療用医薬品集 2006-2015, 丸善など.

## ポスター発表 4

### フランス薬学教育の歴史：16世紀から現在に至る日仏の薬学教育の比較検討に基づく我が国の薬学教育のあり方に関する研究

○儀我 久美子<sup>1</sup>, 越前 宏俊<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>東京都立青山特別支援学校, <sup>2</sup>明治薬科大学)

医薬分業が中世から確立されてきたフランスの薬剤師像は信頼感あふれ、街中の薬局では常に多くの市民が列をなしている。医薬品のみならず市民から持ち込まれる植物・毒キノコなどの同定も行ってきた薬剤師は、市民生活に密接につながり第一次医療を担っているといえよう。この様なフランスの薬剤師像は、技術・倫理観を含む高度な薬学全人教育制度に裏づけられていると思われる。また、第6学年からインターンを4年間、即ち合計9年間の薬学教育を経て就任できる病院薬剤師はチーム医療の中で、社会的・経済的にも医師と同地位が確保され、病院の検査部長や生物医学研究所の経営者には生物医学専攻の薬剤師・医師のみが就くことができる。

日本では医薬分業の進展に伴い薬学教育6年制度が2006年に開始され、従来の創薬・研究者育成中心から薬剤師育成教育へと大きく転換した。約10年前に作成された薬学教育モデル・コアカリキュラムは、「質と量」、「内容」、「薬学臨床教育」に関し、更に10年後の薬剤師の将来像を見据えて2013年に改訂された。新コアカリキュラムが適用される2015年の新入生は、5年後の2019年に新実務実習コアカリキュラムに沿って、病院および市中薬局で合計5ヶ月間の実習を受ける事になっている。

そこで、地理的に多くの国々と国境を接し、ヨーロッパ諸国とは互いに影響を与え合い、子弟の教育は薬剤師たち自らが携わり培ってきた充実した実務実習制度を有する、フランスの薬学教育の長い歴史、—1495年には既に病院薬剤師が存在し、1576年には私設薬学校が創設され、19世紀初頭すなわちアメリカに先んずること150年、既に臨床薬学が実践されていた—を参考にしつつ、今後の日本の薬学教育の在り方について考察する。

## History of Ginseng Research

Jeong Hill Park (College of Pharmacy, Seoul National University)

Ginseng is one of most important and widely prescribed herbal medicines in Asian countries. It is one of most intensively studied herbal medicines in the world as well. More than 10,000 SCI papers have been published so far, and recently more than 800 papers are published annually. Russian scientist Dr. Petkov and Dr. Elyakov, and Japanese scientist Dr. Shibata are pioneers in ginseng research. History of ginseng research will be discussed in this presentation,



## ポスター発表 6

### 中日韓の医薬文献の中に朝鮮人參の記載と伝承

肖 永芝（中国中医科学院中国医史文献研究所）

古くから朝鮮人參の需要は供給より大きく、資源は希少で欠乏であり、品種は比較的多く、真偽優劣が入り混じる。そのうち朝鮮人參は中国・日本・韓国の三国歴史ではその応用時間が長く、範囲は広いである。

#### 1 中国 朝鮮人參の源流

中国魏晉時代の「名医別録」の中に人參について「生上黨及遼東」という記載がある。

南朝梁時代陶弘景の「本草經集注」・唐代李珣の「海藥本草」と北宋寇宗奭の「本草衍義」の中には、高麗の人參の記載がだんだん詳しくなった。上記文献の記載によれば、百濟・新羅・高麗からの人參は貢物として絶えずに中国に入って且つ広範に応用されたことが分かる。

ただし、「高麗參」の名称は初めて現れるのは、明朝であり、つまり陳嘉謨の「本草蒙筌」の中に始めて人參を遼東參・高麗參・百濟參・新羅參に分けていて、それぞれの形態と色に対して比較的詳しい鑑別を行う。

しばらくその後、李時珍の「本草綱目」によれば、上黨の人參は明朝になる時、数量は既に極めて希少であり、病気の治療に用いられるのは主に遼參と朝鮮人參である。

清朝以後になって、陸燁の「人參譜」と呉其濬の「植物名実図考」によると、品質から言えば、上黨參は遼參と高麗參より優れているが、数量の原因で、遼參と高麗參の価格は高いとなる。

#### 2 日本 朝鮮人參の源流

日本早期の本草著作は薬物名称の研究に重点を置き、例えば日本平安時代の「本草和名」、それに鎌倉時代の「本草色葉抄」にはただ人參の異名及び和名を記載する。

江戸時代になって、中国と朝鮮が産出する薬材と本国が産出するのと比較研究を行って、薬材

真偽の鑑別を特に重視した。朝鮮人参は貴重薬材の一つとして、その品種は比較的多く、需要は比較的大きく、市場で販売されるのはいさごも魚交じり、真偽優劣が弁別しにくく、それは本草学家の重点な研究対象となる。この時期、基本的に百済・新羅・高麗の人参を朝鮮人参と総称した。

稲生若水が著作した「炮炙全書」は朝鮮から伝来する百済人参、清朝から伝来する唐人参について、形態において真偽鑑別を行う。

貝原益軒は「大和本草」の中に、朝鮮産の朝鮮人参は高級品、上黨人参は良であると認め、当時江戸に伝来する朝鮮産の朝鮮人参の価格が高く、銀の十倍であり、そのため偽の朝鮮人参がよく現れると云う。

江戸時代になって、朝鮮人参を研究する専門書も多く現れた。西村章次「朝鮮人参弁」は日本市場で販売される朝鮮人参と結合して、朝鮮人参と唐人参の異同を比較して、そして朝鮮人参の高級品と朝鮮節参の図鑑を制作する。

松岡玄達が「広参品」を編纂した。様々な朝鮮人参の品種の鑑別を論述して、そのうち高麗参の形状、色について説明をした。

### 3 韓国 朝鮮人参の源流

朝鮮伝統医学は高麗時代に、その本草学の一つの目覚ましい成果は「郷薬」の誕生だといえる。郷薬の研究に代表作と認められる「郷薬救急方」の中に「人参」は「人蔘」と書かれていて、人蔘の製法についての論述は「名医別録」とほとんど同じである。

李氏朝鮮時代に編纂された「郷薬集成方」の巻76の中に朝鮮人参についての記載は劉宋時期の雷敦の「雷公炮炙論」に記載する人参の製法と同じである。その他、巻78朝鮮人参の項目が引用するのは「海薬本草」が新羅人参についての説明である。

その他の重要な医学書籍、例えば許浚の「東医宝鑑」、李濟馬の「東医寿世保元」は主に中国の医学文献を引用、選び出し、そのうち朝鮮人参についての研究は臨床治療に重きをおく

以上中国・日本・朝鮮の医薬文献で朝鮮人參についての記載を総合して下記のことを了解できる。つまり、中国は朝鮮人參に関する医薬知識と薬材はそのものが中国、朝鮮両国朝鮮人參の研究と応用にとって重要な影響があり、同時に朝鮮人參は中国と日本の伝統医学歴史に不可欠な役割を果たして、中国・日本・朝鮮の医薬交流と伝承を体現している。

## ポスター発表 7

### 日本酒の奈良地方発症のルーツと効用の歴史

○鈴木 利一, 松本 和男 ((株) ナールスコーポレーション)

古来より“酒は百薬の長”と言われ、酒の効能は貝原益軒の『養生訓』に倣えば、ストレス解消、食欲増進、栄養効果となる。

しかし、これらはアルコールによる作用とも言え、酒類全般にいえる作用である。では、日本独特の日本酒に特有の薬理作用は何であろうか。日本酒に含まれる成分は製法により異なるので、一概には言えない。本報告では、奈良地方の日本酒のルーツを辿り、特に製法と効能との関係を考察したい。

日本酒の歴史は考古学的には諸説あるが、本報告では現代の清酒に繋がる、平安時代中期から室町時代末期にかけて、上質で高級な日本酒として名声を馳せた「南都諸白」をその起源とした。南都諸白はその名のとおり、奈良（南都）の寺院で作られた僧坊酒の総称で、特に菩提山正暦寺は大量の僧坊酒を生産した。当時の正暦寺では「三段仕込み」や「火入れ」など、近代醸造法の基礎となる酒造技術が確立されていた。

一般的な清酒の成分は水とアルコールとグルコースであるが、残り約3%に数百種類以上といわれる種々の成分が含まれていて、製法により成分が異なる。最近、この中で含有量の多い $\alpha$ -エチルグルコシド ( $\alpha$ -EG) の新たな機能が明らかになった。 $\alpha$ -EGは配糖体であり、清酒の“もろみ”中のマルトオリゴ糖やデキストリン成分からの酵素的糖転移反応で生成される。

ラットの実験では、 $\alpha$ -EGには体重増加の抑制作用があり、正常動物より肥満モデルで顕著であった。その作用メカニズムは小腸でのグルコース吸収抑制である。また、マウス UV 荒れ肌モデルでは UVB 照射後の経皮水分蒸散量の顕著な上昇抑制や表皮細胞の角化促進などが認められ<sup>\*</sup>、古来より日本酒は飲用だけではなく、化粧品としての用途も知られていることを裏付けている。

\* ) 日本醸造協会誌, 99, 836 (2004)

## 生薬「柿蒂」の薬能及び薬用部位に関する史的深化

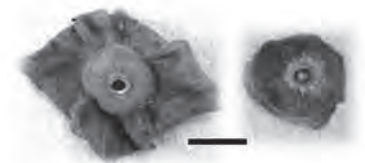
○楠木 歩美<sup>1</sup>, 高浦 佳代子<sup>1,2</sup>, 高橋 京子<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 大阪大学大学院薬学研究科、<sup>2</sup> 大阪大学総合学術博物館)

**【目的】** 生薬「柿蒂（：シテイ）」は日本薬局方外生薬規格（：局外生規）に「カキノキ *Diospyros kaki* Thunberg の成熟した果実の宿存萼」と定義される吃逆（しゃっくり）の主要な軽減薬である。品質保証学の視座から柿蒂の薬用部位及び薬能を考察することを目的とした。

**【方法】** 本草拾遺（739年）～1893年間の日中韓歴代本草及び1960年～現在に至るシテイ関連文献検索に基づく計123件を資料とした。形態学的検証は、阪大所蔵の中尾万三・木村康一蒐集標本や津村研究所製和漢薬標本を含む1900年初頭～現在に至る市場品を対象に、電子ノギス・電子天秤及びデジタルマイクロスコープで可視化した。

**【結果・考察】** 8～19世紀の中国・韓国計20件、日本計27件の本草書中にシテイの記載を認めた。薬能は大半が吃逆止めで、薬用部位の性状記載はない。近世・近代のシテイ関連名称として柿蒂（蒂/錢）、柿蒂（蒂/錢）散、柿蒂（蒂）湯、柿蒂二陳湯等を確認した。1936年以降の臨床報告20件（計164症例）を抽出・解析した結果、シテイ対象疾患の91%が吃逆で、治療過程に症状の消失や顕著な改善が見られた症例は約80%に達するが、欧米からの治験報告は皆無である。シテイを吃逆軽減薬として臨床使用する伝統は東アジアに特化した文化と考察した。形態学的にシテイの萼は蒂座・子房壁・萼片から構成される。形態観察の結果、博物標本や1900年代流通市場品の多くが萼片を伴う性状を呈したのに対し、2014年品では蒂座・子房壁のみで萼片が欠落していた（図参照）。産地はすべて中国産だが、萼片有の中華人民共和国薬典（2015）規格性状に合致していない。近年、実地臨床からシテイ煎の効果減弱が指摘されており、薬用部位における萼片の存在意義の解明が急がれる。



津村研究所製和漢薬標本(左)と  
2014年市場品(右) スケール:1cm

## ポスター発表 9

### 奈良県漢方のメッカ推進プロジェクト

橋本 安弘<sup>1</sup>、前阪 祥弘<sup>2</sup>、和田 正光<sup>3</sup>、○辻元 康人<sup>4</sup>、  
清水 浩美<sup>5</sup>、浅尾 浩史<sup>6</sup>、植山 高光<sup>7</sup>

(<sup>1</sup> 奈良県知事公室、<sup>2</sup> 産業政策課、<sup>3</sup> 農業水産振興課、<sup>4</sup> 薬務課、<sup>5</sup> 産業振興総合センター、  
<sup>6</sup> 農業研究開発センター、<sup>7</sup> 薬事研究センター)

奈良には、古代にまで遡る文化的・歴史的厚みを持つ生薬の物語がある。今、予防医学の観点から注目を集めている漢方。奈良だからできる漢方や生薬を題材としたプロジェクトを平成24年12月にスタートさせた。

日本書紀には、611年に今の宇陀地方で推古天皇が薬猟をされた記述があるが、鹿狩のほか自生の薬用作物も採取したものと考えられる。東大寺正倉院には、聖武天皇の遺品として60種の薬物が納められていたが、民衆への提供も視野に入れたものであった。

また、東大寺の「奇応丸」、西大寺の「豊心丹」、唐招提寺の「奇効丸」などの薬の名が伝えられているが、民衆に分け与えた寺社仏閣の施薬活動がその後の売薬業の興隆につながっていった。

県では、原料となる薬用作物の生産、漢方関連品の製造販売を行う既存業の振興はもとより、新商品・新サービスの創出も視野に入れ、産業活性化を図っている。渡辺賢治慶応義塾大学教授をプロジェクトチームのアドバイザーに迎え、生薬の供給拡大（ステージ1）、漢方薬等の製造（ステージ2）、漢方薬等の研究・臨床（ステージ3）、漢方の普及（ステージ4）の各々4つのステージにおいて、課題解決のための施策に取り組んでいる。

薬用作物の安定供給に係る研究、薬用作物栽培指導者の育成、県産薬用作物を使用した企業の製品開発の支援、薬用作物の食としての加工技術を研究開発、優良品種を安定して栽培できるビジネスモデルの構築、漢方薬シンポジウムなどによる県民への普及などを通じて、地域活性化を図っていきたい。

日・中・韓 国際薬史フォーラム  
日本薬史学会 2015 年会（奈良）

年会長

村岡 修（近畿大学・副学長・薬学部長）

年会実行委員会

委員長：宮崎 啓一（三栄化工株式会社・代表取締役）

委員：秋本 行俊（奈良市薬剤師会・会長）

伊藤美千穂（京都大学大学院薬学研究科・准教授）

川崎 元士（長岡実業株式会社・部長）

杉野 敏史（奈良リハビリテーション病院・経営企画本部 本部長）

高橋 京子（大阪大学大学院薬学研究科・准教授）

高橋 浩治（奈良リハビリテーション病院・副理事長）

竹上 茂（奈良県薬剤師会・会長）

竹原 潤（株式会社ファーストメディカル・代表取締役）

中辻 慎一（兵庫県立大学大学院物質理学研究科・特任教授）

中村 善之（奈良県製薬協同組合・理事）

西村弘美男（株式会社キリン堂・顧問）

東川 武夫（川文産業株式会社・代表取締役）

松田 秀秋（近畿大学薬学部・教授）

松本 和男（株式会社ナールスコーポレーション・代表取締役）

松山 賢治（近畿大学薬学部・教授）

宮本 義夫（くすりの道修町資料館・前館長）

森川 敏生（近畿大学薬学総合研究所・教授）

山添 譲（近畿大学医学部附属病院・薬局長）

吉岡 龍藏（京都大学化学研究所・特任研究員）

（五十音順）

## 謝 辞

日・中・韓 国際薬史フォーラム／日本薬史学会 2015 年会（奈良）を開催するにあたり、下記の企業より多大なるご支援を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

### 協賛・広告企業等一覧（敬称略）

#### 協 賛（五十音順）

|                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 株式会社 ア・ファーマ近大        | 株式会社 アインファーマシーズ |
| 株式会社 ア・ファーマ近大        | 株式会社 アインファーマシーズ |
| 株式会社 アルプ企画           | 株式会社 栄進商事       |
| エーザイ 株式会社            | 株式会社 きぼう        |
| 株式会社 キリン堂            | くるーず薬局          |
| 興和創薬 株式会社            | 小林製薬 株式会社       |
| 米田薬品工業 株式会社          | 株式会社 サエラ        |
| 塩野香料 株式会社            | 株式会社 ストーン・フィールド |
| 第一三共 株式会社            | 大鵬薬品工業 株式会社     |
| 株式会社 ツムラ             | 株式会社 阪神調剤薬局     |
| ファーマライズホールディングス 株式会社 | 株式会社 プラザ薬局      |
| 株式会社 松本興産            |                 |

#### 看板支援

一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー

#### 広告掲載（五十音順）

|                |                      |
|----------------|----------------------|
| 株式会社 アカカベ      | アストラゼネカ 株式会社         |
| 株式会社 アルプ       | イオンリテール 株式会社         |
| エーザイ 株式会社      | 株式会社 エスマイル           |
| 大峯山陀羅尼助製薬 有限会社 | 杏林製薬 株式会社            |
| クオール 株式会社      | 興和創薬 株式会社            |
| 株式会社 サエラ       | 株式会社 三光丸             |
| 塩野香料 株式会社      | 武田薬品工業 株式会社          |
| 田辺三菱製薬 株式会社    | 田村薬品工業 株式会社          |
| 長岡実業 株式会社      | 中村薬品工業 株式会社          |
| 株式会社 南都銀行      | 株式会社 フロンティア          |
| 三星製薬 株式会社      | MeijiSeika ファルマ 株式会社 |
| 持田製薬 株式会社      | ユニテックメディカル 株式会社      |





株式会社アカカベは、大阪市や大阪北東部を中心に薬局やドラッグストア、介護・シルバーケア、クリニック開業支援等を行っている企業です。地域医療に広く貢献し、地域に根差し、地域に愛される企業を目指しています。



■ いつも地域とともに ■



サイエンスの限界に挑み、患者さんの人生を変える医薬品をお届けする

AstraZeneca 



# まごころで健康を。 私たちは「アルプ」です。



## 臨床検査事業

病気の診断、治療に欠かせない臨床検査。私たちは最新の技術でより高い精度を追求し、迅速な対応で地域医療に貢献してまいります。



## 食品・環境衛生事業

毎日の生活に欠かせない「食」。私たちは、食品・食材の検査や厨房の衛生調査などを通して「食の安全・安心」をサポートしてまいります。



## 調剤薬局事業

いつまでも元気にいきいきと暮らしたい。そんな願いを大切に、私たちは「まちのかかりつけ薬局」としてまごころのこもった調剤・服薬指導に努めてまいります。

アルプは、3つの事業を中心に皆さまの健康をトータルにサポートいたします。



株式会社 アルプ 〒920-8217 石川県金沢市近岡町309番地 TEL.076-237-4230/FAX.076-237-8027  
[調剤薬局 アルプ薬局/臨床検査/食品・環境衛生検査/コンサルタント業務] <http://www.alp-grp.jp>



AEON

あなたに笑顔届けたい。  
それが私たちイオンの願いです。

患者さまの健やかな暮らしのために、  
新たな医療サービスを創造しています。

**イオンリテール株式会社**

千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1

イオンリテール 薬剤師

検索

調剤薬局 223 店舗



[ PC・スマホサイト ]

<http://www.aeonretail.jp/saiyo/pharmacist/>



0120-12-8130 (平日9:00~17:00)

# Docetaxel i.v. infusion

新発売



毒薬、処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること  
タキソイド系抗悪性腫瘍剤

薬価基準収載

ドセタキセル点滴静注 20mg/1mL「EE」  
ドセタキセル点滴静注 80mg/4mL「EE」

〈ドセタキセル注射液〉

診療報酬上の先発・代表薬剤：ワンタキソテール®点滴静注

※製品名の末尾「EE」は「Elmed Eisai Co.,Ltd.」の略称です。

●効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売元



エルメッド エーザイ株式会社  
東京都豊島区東池袋3-23-5

販売提携



エーザイ株式会社  
東京都文京区小石川4-6-10

商品情報お問い合わせ先：

エーザイ hhcホットライン

EEダイヤル

☎0120-223-698

DOC11508

2015年8月作成



えがおの保険薬局

わたしたちの会社の真ん中にいるのは、人。  
人の真ん中にあるのは、スマイルです。

中国地方で128店舗展開

2015年7月現在

株式会社 エスマイル

〒730-0833 広島県広島市西区商工センター 6-1-11

伝統とききめ  
和漢胃腸薬

# 陀羅尼助丸

大峯山陀羅尼助製薬有限公司

〒638-0431 奈良県吉野郡天川村大字洞川 485-1

TEL 0747-64-0848 FAX 0747-64-0849

健康だからできること。  
挑戦します。これからも。

健康はキョーリンの願いです。

Kyorin

キョーリン製薬グループ

キョーリン製薬ホールディングス

キョーリン製薬

キョーリン リメディア

ドクタープログラム

キョーリン メディカルサプライ

キョーリン製薬グループ工場

「できないという思い込みを取っ払う。  
もっと、自分を楽しむために。」

水中表現家  
ギネス世界記録保持者  
二木 あい

海底洞窟を一息で泳ぐ  
世界初 <sup>フィン無し</sup> 90m  
女性世界初 <sup>フィン有り</sup> 100m

〔本社〕東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地

## 教育のクオールで、なりたい薬剤師になろう。

医師や看護師と連携して、患者さまと向きあうために。クオールは、専門性の高い薬剤師を育てることに注力し、教育研修制度をさらに充実させました。

患者さま、地域のみなさまにとって、  
「あなたの、いちばん近くにある安心」でありたい。  
私たちは、クオールです。



中途採用についてのお問合せはこちらへ。

✉ [recruit@qol-net.co.jp](mailto:recruit@qol-net.co.jp)

☎ 0120-303-811 [採用部 薬剤師採用グループ]

クオール株式会社

〒105-8452 東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー37階  
<http://www.qol-net.co.jp/>

PROFESSIONAL PHARMACIST — 選ばれつづける薬剤師になるために。 —

選択的SGLT2阻害剤 -2型糖尿病治療剤- 薬価基準収載

# デベルザ<sup>®</sup>錠20mg

トホグリフロジン水和物錠 処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、  
添付文書をご参照ください。

**Kowa**

製造販売元(資料請求先)

興和株式会社  
東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

販売元

興和創薬株式会社  
東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

選択的DPP-4阻害剤 -2型糖尿病治療剤- 薬価基準収載

# スイニー<sup>®</sup>錠100mg

## SUINY<sup>®</sup>100

(アナグリプチン錠)

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、用法・用量に  
関連する使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

**Kowa**

販売元(資料請求先)

興和株式会社  
東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

販売元

興和創薬株式会社  
東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

製造販売元

株式会社 三和化学研究所  
佐賀県東区東外町35番地 〒846-8631

# サエラの『わ』

サエラにはたくさんの『わ』があります。  
スタッフのつながりがつくる『わ』  
店舗同士のつながりがつくる『わ』  
地域の方々とつながりがつくる『わ』 ...  
全てをつないで大きな『わ』に

当社は人々が健康で幸せに暮らせる手助けをする  
為に努力を続けることができる仲間を求めています



～真心で「ひと」を育てる薬局です～



SAERA PHARMACY  
Heartful Life Station

# サエラ薬局



サエラ薬局では、調剤・監査・  
服薬指導を通して患者様が安心  
してお薬を飲めるようサポート  
しています。  
患者様一人ひとりに寄り添い、  
地域の皆様の健康をサポート  
していきます。

サエラ薬局 (株式会社サエラ)

〒541-0053 大阪府中央区本町2-2-5本町第2ビル3階

☎0120-336-510

✉opusinfo@saera-ph.co.jp

三光丸の  
「さんこう丸」でござる!  
みなさまの健康を  
お守りするでござる!



700年の歴史



■プロフィール  
 「出身地」大和国 (やまとのくに)  
 (現在の奈良県御所市あたり)  
 「性別」不明  
 「年齢」不明  
 「性格」明るく元気!  
 「得意技」30分身の術、他は不明。  
 「好きな数字」3

健康のメッセージを携えて和漢薬の「三光丸」が直接ご家庭までお伺いします。

株式会社 三光丸

〒639-2245 奈良県御所市今住700-1  
 TEL.0745-67-0003 FAX.0745-67-9003  
<http://www.sankogan.co.jp>



塩野香料株式会社

より自然に、より心地よく。  
 香りの魔法で輝く未来を創造します。

FLAVORS  
 SAVORY FLAVORS  
 FRAGRANCES  
 FINE&AROMA CHEMICALS



FLAVORS | SAVORY FLAVORS | FRAGRANCES | FINE&AROMA CHEMICALS

本社：〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番6号  
 TEL:06-6231-3013 (代表) FAX:06-6229-8316  
 東京支店：〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町19番地  
 TEL:03-3251-7338 (代表) FAX:03-3252-0165  
 研究所：東京・大阪 工場：大阪 海外事業所：台湾・上海  
<http://www.shionoya-kogyo.co.jp>



Better Health, Brighter Future



タケダから、世界中の人々へ。より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえのない人生をより健やかに過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から治療・治療にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。その一つひとつに答えていくことが、私たちの新たな使命。よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早くお届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の未来を切り拓いていきます。

[www.takeda.co.jp](http://www.takeda.co.jp)

武田薬品工業株式会社



TM & ©TOHO CO., LTD.

選択的ヒスタミン H<sub>1</sub> 受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤 薬価基準収載

**タリオン**® 錠5mg・10mg  
OD錠5mg・10mg

TALION® Tablets 5mg・10mg (日本薬局方 ベボタスチンベシル酸塩錠)  
TALION OD Tablets 5mg・10mg (ベボタスチンベシル酸塩口腔内崩壊錠)

【処方箋医薬品】(注意・医師等の処方箋により使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

提携  
宇部興産株式会社



製造販売元(資料請求先)  
田辺三菱製薬株式会社  
大阪市中央区道修町3-2-10

2015年5月作成



田村薬草園

何事も原点から始まる

開園：1980年 / 敷地面積：約21,440㎡ (標本園：8,440㎡・実験園：13,000㎡) / 種類：約550種 (薬草：約370種・薬木：約180種)  
 開園期間：4月～10月 / 見学時間：月曜日～金曜日 午前10時～午後4時 (祭日を除く) / 休園日休園期間：11月～3月



TAMURA

## 田村薬品工業株式会社

本社 / 〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-1-10 TEL:06-6203-4861  
 奈良工場・薬草園 / 〒639-2295 奈良県御所市西寺田 50 TEL:0745-66-1521

<http://www.tamura-p.co.jp>

胃腸から元気にする命の草

高麗人參  
 甘草  
 センブリ  
 黄柏  
 桂皮  
 ゲンチアナ

六種の厳選された生薬が効く

和漢胃腸薬  
**万葉健胃丸**  
 食欲不振・胃弱・食べすぎ

和漢胃腸薬  
**万葉健胃丸**  
 食欲不振・胃弱・食べすぎ

和漢胃腸薬  
**万葉健胃丸**  
 食欲不振・胃弱・食べすぎ

和漢胃腸薬

万葉  
**健胃丸**  
 高麗人參

大和の伝統薬三百年の歴史

第3類医薬品

中村薬品工業株式会社 奈良県高市郡高取町丹生谷 31-32 電話 0745-67-0038(代)



長岡の

# 人蔘精



創業以来

200余年にわたる伝統と信頼。

長岡の人蔘精が選ばれるのには理由があります。



熟成人蔘精

2倍濃縮

一切無添加

保存料、着色料、香料、甘味料等

天然原料だけを使用



自然のままを抽出



人蔘を2倍に濃縮



◆ 長岡実業株式会社

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜4丁目7番18号 TEL:0798-26-1001 FAX:0798-26-0055 URL: <http://www.nagaoka-mint.co.jp>

あらたなる  
時代へ、  
南都銀行。

日本人の心の故郷、古都・奈良。

私たちは、いにしえの地・奈良に本拠を構え

皆さまとともにあゆんできました。

悠久の時間が流れるこの地で

これからも、より頼れるパートナーとして

一人ひとりのお客さまに応えられる銀行でありたい。

南都銀行はあらたなる時代に向かって

皆さまとともにあゆみ続けていきます。



平城宮跡  
第一次大極殿

ナント・なら・ずっと!  
**NANTO 南都銀行**

南都銀行本店 / 奈良市橋本町16 <http://www.nantobank.co.jp/>

地域の皆様の健康と暮らしを支える



**フロンティア薬局**



フロンティアでは調剤薬局をはじめ、福祉用具のレンタル・販売、住宅改修など「医療」と「福祉」の2つのサービスで皆様の暮らしをサポートします

保険調剤薬局 全国152店舗  
福祉用具貸与 全国40営業所



人と心を大切にする

**株式会社フロンティア**

本社・薬剤本部

大阪市淀川区宮原3-5-36 新大阪トラストタワー14階

TEL:06-6396-8100

<http://www.frontier-ph.com/>

# 天然素材を扱って100年余り

和漢薬原料・医薬品製造・健康食品  
有機食品・各種製剤受託製造



## 三星製薬株式会社

〒639-2216 奈良県御所市153番地

TEL 0745-65-2130 FAX 0745-62-0138

URL : <http://www.mitsuboshi-ph.com/>

明日をもっとすこやかに

### meiji

### 主要医薬品

経口用セフェム系抗生物質製剤

処方せん医薬品<sup>※</sup>



日本薬局方 セフジトレンピボキシル錠/細粒

**マイアクトMS<sup>®</sup>錠100mg**  
小児用細粒10%

経口用カルバペネム系抗生物質製剤

処方せん医薬品<sup>※</sup>



**オラペネム<sup>®</sup>小児用細粒10%**

テビペネムピボキシル細粒

アミノグリコシド系抗生物質製剤

劇薬、処方せん医薬品<sup>※</sup>



日本薬局方 アルベカシン硫酸塩注射液

**ハベカシン<sup>®</sup>注射液** 25mg 100mg  
75mg 200mg

カルバペネム系抗生物質製剤

処方せん医薬品<sup>※</sup>



**オメガシン<sup>®</sup>** 点滴用0.3g  
点滴用0.3gバッグ

注射用ピアベネム

ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤

劇薬、処方せん医薬品<sup>※</sup>



**リフレックス<sup>®</sup>錠15mg**

ミルタザピン錠

選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (SSRI)

処方せん医薬品<sup>※</sup>



日本薬局方 フルボキサミンマレイン酸塩錠

**デプロメール<sup>®</sup>錠** 25  
50  
75

持続性心身安定剤

向精神薬、処方せん医薬品<sup>※</sup>



**メイラックス<sup>®</sup>錠1mg 2mg**  
細粒1%

ロフラゼパ酸エチル錠/細粒

薬価基準収載 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

※効能・効果、用法・用量、効能・効果に関連する使用上の注意、  
用法・用量に関連する使用上の注意、禁忌、原則禁忌を含む  
使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元

**Meiji Seika ファルマ株式会社**  
東京都中央区京橋 2-4-16  
<http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>

〈資料請求先〉

Meiji Seika ファルマ株式会社 ぐすり相談室  
〒104-8002 東京都中央区京橋 2-4-16  
電話(0120)093-396、(03)3273-3539

作成：2013.6

# 持田製薬 がん領域の製品ラインナップ



新発売

抗悪性腫瘍剤 毒薬、処方箋医薬品<sup>※</sup> 薬価基準収載  
**オキサリプラチン点滴静注液** 50mg/10mL「ホスピーラ」  
 100mg/20mL  
(オキサリプラチン・注射液) 製造販売元(輸入元):ホスピーラ・ジャパン株式会社

新発売

抗悪性腫瘍剤 毒薬、処方箋医薬品<sup>※</sup> 薬価基準収載  
**パクリタキセル点滴静注液** 30mg/5mL「ホスピーラ」  
 100mg/16.7mL  
(パクリタキセル・注射液) 製造販売元(輸入元):ホスピーラ・ジャパン株式会社

タキソイド系抗悪性腫瘍剤 毒薬、処方箋医薬品<sup>※</sup> 薬価基準収載  
**ドセタキセル点滴静注液** 20mg/2mL「ホスピーラ」  
 80mg/8mL  
 120mg/12mL  
(ドセタキセル水和物・注射液) 製造販売元(輸入元):ホスピーラ・ジャパン株式会社

抗腫瘍性抗生物質製剤 劇薬、処方箋医薬品<sup>※</sup> 薬価基準収載  
**エピルビシン塩酸塩注射液** 10mg/5mL「ホスピーラ」  
 50mg/25mL  
(エピルビシン塩酸塩・注射液) 製造販売元(輸入元):ホスピーラ・ジャパン株式会社

抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品<sup>※</sup> 薬価基準収載  
**イリノテカン塩酸塩点滴静注液** 40mg「ホスピーラ」  
 100mg  
(イリノテカン塩酸塩水和物・注射液) 製造販売元(輸入元):ホスピーラ・ジャパン株式会社

代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品<sup>※</sup> 薬価基準収載  
**ゲムシタピン点滴静注用** 200mg「ホスピーラ」  
 1g  
(ゲムシタピン塩酸塩・凍結乾燥注射剤) 製造販売元(輸入元):ホスピーラ・ジャパン株式会社

 G-CSF製剤 処方箋医薬品<sup>※</sup> 薬価基準収載  
**フィルグラスチムBS注シリンジ** 75μg「モチダ」  
 150μg  
 300μg  
**Filgrastim BS 75μg/150μg/300μg Syringe for Inj. MOCHIDA**  
(フィルグラスチム(遺伝子組換え)[フィルグラスチム後続1]・注射液) 製造販売元:持田製薬株式会社

MOCHIDA BIO PHARMILAR  
 持田の品質と信頼を  
 より多くの人に

注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等の詳細は添付文書をご参照ください。

販売<資料請求先>  
**持田製薬株式会社**  
 東京都新宿区四谷1丁目7番地  
 ☎ 0120-189-522(くすり相談窓口)

2015年2月作成

企画力を強みに、  
人々と同じ目線に立った  
高品質・安心安全な  
商品作りを行います。

商品一例



医薬品



健康食品

健康を  
人々と同じ目線で見つめる

自社工場での製造だけでなく、信  
頼のおけるパートナー会社との連  
携により、幅広いニーズに沿った  
OEM製造も行っております。



管理医療機器



救急箱等

ユニテックメディカル株式会社

本 社：大阪市天王寺区東高津町 9-23 TEL:06-6191-7151  
高 取 工 場：奈良県高市郡高取町車木 323-1 TEL:0745-63-1723  
大 心 薬 舗：奈良県大和高田市今里町 18-28 TEL:0745-52-4694

---

日・中・韓国際薬史フォーラム  
日本薬史学会 2015 年会（奈良）  
講演要旨集

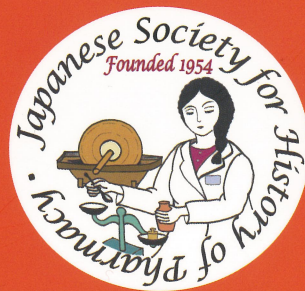
2015 年 11 月 20 日 発行

発行 日本薬史学会 2015 年会（奈良）実行委員会  
年会長 村岡 修

編集 日本薬史学会 2015 年会（奈良）事務局  
〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3 丁目 4 番 1 号  
近畿大学薬学部内

---





#### 年会事務局

---

事務局長：宮崎 啓一（三栄化工株式会社）

庶務担当：森川 敏生（近畿大学薬学総合研究所）

〒577-8502 東大阪市小若江3丁目4番1号 近畿大学薬学部内

TEL : 06-4307-4306 FAX : 06-6729-3577

E-mail : yakushi2015@phar.kindai.ac.jp